

千徳城遺跡群

— 一条工務店モデルハウス建築工事関係発掘調査報告書 —

2015. 3

岩手県宮古市教育委員会

千徳城遺跡群

— 一条工務店モデルハウス建築工事関係発掘調査報告書 —



2015. 3

岩手県宮古市教育委員会

序 文

中世の城館跡は市内の地名にその名を残しております。その中でも閉伊川を臨む位置にたつ千徳城跡は、規模も大きく、当時の代表的な城館跡の一つです。今回の調査は千徳城の東の山裾で行われました。調査の結果、江戸時代の建物跡が見つかりました。その建物は湿地の上に盛土をするという「造成工事」を行って建てられていました。中世に関係のある遺物、遺構こそは出土しませんでした。中世の千徳城の東側の周縁部が湿地状の環境であったことが推測されます。また、江戸時代には土地の悪条件を克服して人々の生活の場が広げられていたこともわかりました。調査区の範囲は100平方メートルに満たない広さでしたが、近世の好資料が得られたものと思われま

す。最後に一条工務店はじめ、調査現場、あるいは室内での資料整理に御協力いただきました関係者、各位に深く感謝申し上げますとともに、この成果が広く活用されることを願って序文とします。

平成 27 年 2 月

宮古市教育委員会

教育長 伊 藤 晃 二

例 言

1. 本書は(株)一条工務店のモデルハウス建設工事に伴う「千徳城遺跡群」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査主体は宮古市教育委員会（教育長 伊藤晃二）である。発掘調査及び本書の執筆・編集は文化課の阿部が担当し、他の文化財担当者がこれを補佐した。
3. 調査座標については世界測地系に従い、整数末尾3桁の数値を用いた。高さについては標高値をそのまま用いた。
原点座標 X=38000.000 Y 94000.000
4. 土色及び土層の観察に際しては『新版標準土色帖』（小山忠雄、竹原秀雄編著 2001年度版）を使用した。
5. 遺物写真図版については、原則として実測図版の縮尺に合わせて載せた。釘については実寸大で載せた。遺物写真に付した番号は、図版番号—遺物番号である。
6. 本書に収録した調査記録及び出土資料は宮古市教育委員会で保管している。

目次

序文

例言

目次 図版目次 写真図版目次 挿図目次

1	調査に至る経過	1
1-1	調査に至る経過	
1-2	調査趣旨	
1-3	調査体制	
1-4	立地と環境	
2	検出した遺構と環境	5
2-1	基本層序	
2-2	検出した遺構と遺物	
3	調査のまとめ	36

図版目次

図版目次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第2図	地形分類図	3
第3図	周辺の地形と試掘地点	4
第4図	調査区北壁面、 東壁面土層堆積断面図	5
第5図	近代の遺構 石組み	6
第6図	調査区東壁面土層断面図	7
第7図	2層出土遺物	7
第8図	I期遺構配置図	9
第9図	I期 炉跡平・断面図	10
第10図	I期 遺構出土遺物	11
第11図	3 a、3 b層出土遺物(1)	12
第12図	3 a、3 b層出土遺物(2)	13
第13図	3 a、3 b層出土遺物(3)	14
第14図	3 a、3 b層出土遺物(4)	15
第15図	3 a、3 b層出土遺物(5)	16
第16図	3 a、3 b層出土遺物(6)	17
第17図	3 a、3 b層出土遺物(7)	18
第18図	3層堆積状況	19
第19図	遺構外出土遺物(1)	20
第20図	遺構外出土遺物(2)	21
第21図	II期遺構配置図	24
第22図	1号炉跡平・断面図	25
第23図	1号焼土遺構平・断面図	25
第24図	9号、14号土坑跡断面図	25
第25図	1号、2号土坑跡、 12号炉跡平・断面図	26
第26図	II期 土坑跡断面図	26
第27図	焼土、炭の広がり 平・断面図	27
第28図	4層堆積状況	27
第29図	II期遺構出土遺物(1)	29
第30図	II期遺構出土遺物(2)	30
第31図	II期遺構出土遺物(3)	31
第32図	遺構外出土遺物(1)	32
第33図	遺構外出土遺物(2)	33
第34図	遺構外出土遺物(3)	34
第35図	III期遺構群の配置、土坑跡平・断面図	35
第36図	III期 1号焼土遺構平・断面図	35

写真図版目次

写真図版 1	1	近代の遺構 石組み	41
	2	I期検出状況 炭、焼土のひろがり	41
写真図版 2	3	I期炉跡検出状況	42
	4	I期炉跡検出状況	42
写真図版 3	5	3層堆積状況	43
	6	II期遺構検出状況	43
写真図版 4	7	1号土坑検出状況	44
	8	簪、筭、紅皿出土状況	44
	9	4号土坑跡完掘状況	44
	10	8号土坑完掘状況	44
	11	1号炉跡検出状況	44
	12	1号炉跡構築状況	44
	13	12号炉跡断面	44
	14	III期焼土遺構	44
写真図版 5	15	II期遺構完掘状況	45
	16	調査区西壁面	45
写真図版 6	17	調査区北壁面	46
	18	調査区東壁面	46
写真図版 7		遺物写真 陶磁器	47
写真図版 8		遺物写真 銭貨	48
写真図版 9		遺物写真 銭貨、釘	49
写真図版 10		遺物写真 銅製品、土製品	50

1 調査に至る経過

1-1 調査に至る経過

千徳城遺跡群は、宮古市千徳地区に位置し、千徳城・千徳古城・堀合館や縄文時代から平安時代の集落跡などで構成される複合遺跡である。

今回の発掘調査地点は、宮古市千徳町2番の一部、4番の一部、5番のうち住宅建物建築にかかる範囲である。株式会社一条工務店から当該地に展示住宅を建築したいという申し出があり、協議を重ねたうえで、平成24年11月2日付で埋蔵文化財発掘の届出が提出された。その後試掘調査は平成24年11月5日から11月8日まで行われた。試掘調査の結果、近世の遺構、遺物が確認されたので、展示住宅建築前に本調査が必要である旨を一条工務店に伝えた。本調査については、平成25年6月17日付で「埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」と「埋蔵文化財調査委託契約書」を取り交わし、同年6月24日から開始した。また、発掘調査報告書については、平成26年度に資料整理及び報告書刊行作業を行った。

1-2 調査要旨

調査地点 宮古市千徳2番の一部、4番の一部、5番
調査面積 72平方メートル
調査期間 試掘調査 平成24年11月5日～同年11月8日
本調査 平成25年6月24日～同年8月9日
資料整理 平成26年7月1日～同年10月31日

検出した遺構と遺物

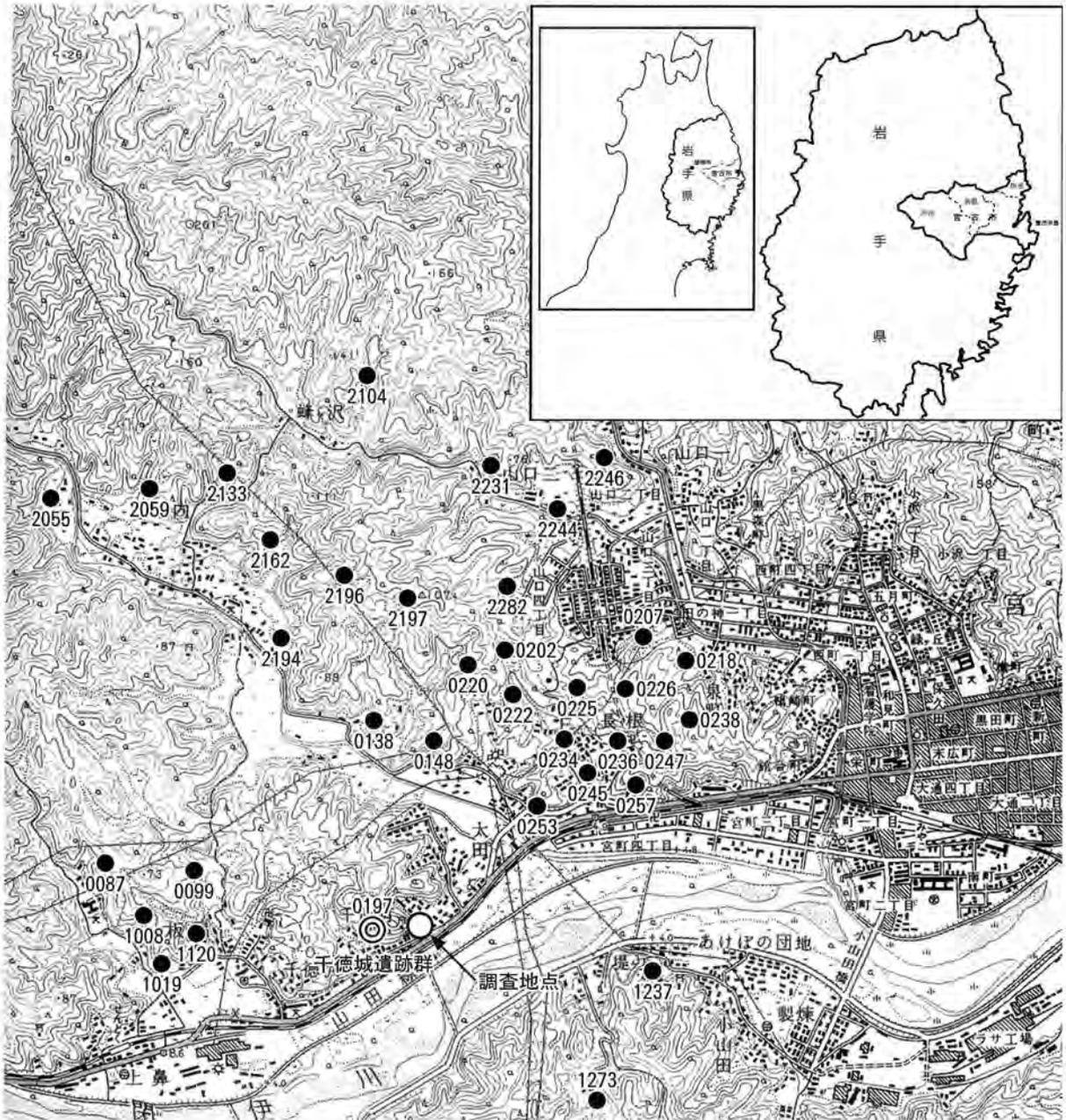
遺構 江戸時代末期の焼失家屋跡、建物跡、炉跡、土坑跡
遺物 陶磁器、鉄製品（鉄銭、釘など）、銅製品（銅銭、簪、筭など）、土製品（泥面子、紡錘車など）

1-3 調査体制

調査主体 宮古市教育委員会 教育長 伊藤 晃二
調査総括 竹下将男 宮古市教育委員会文化課長
調査員 高橋憲太郎 // 文化課副主幹
鎌田祐二 // 文化課副主幹
布谷義彦 // 文化課主任文化財調査員
加納由美 // 文化課主任文化財調査員
安原誠 // 文化課主任文化財調査員
長谷川真 // 文化課主任文化財調査員
江口邦泰 // 文化課主任文化財調査員
千葉剛史 // 文化課文化財調査員
阿部豊 // 文化課埋蔵文化財発掘調査員（調査・報告書担当）
前川友宏 // 文化課埋蔵文化財調査員
赤沼みちる // 文化課埋蔵文化財調査員

<発掘調査作業員・整理作業員>

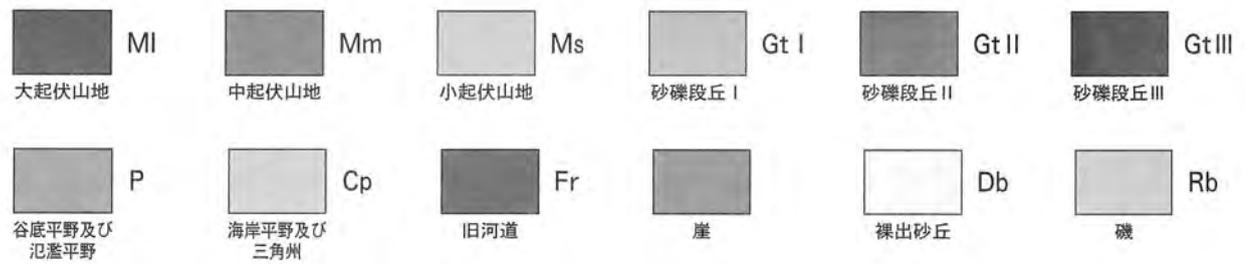
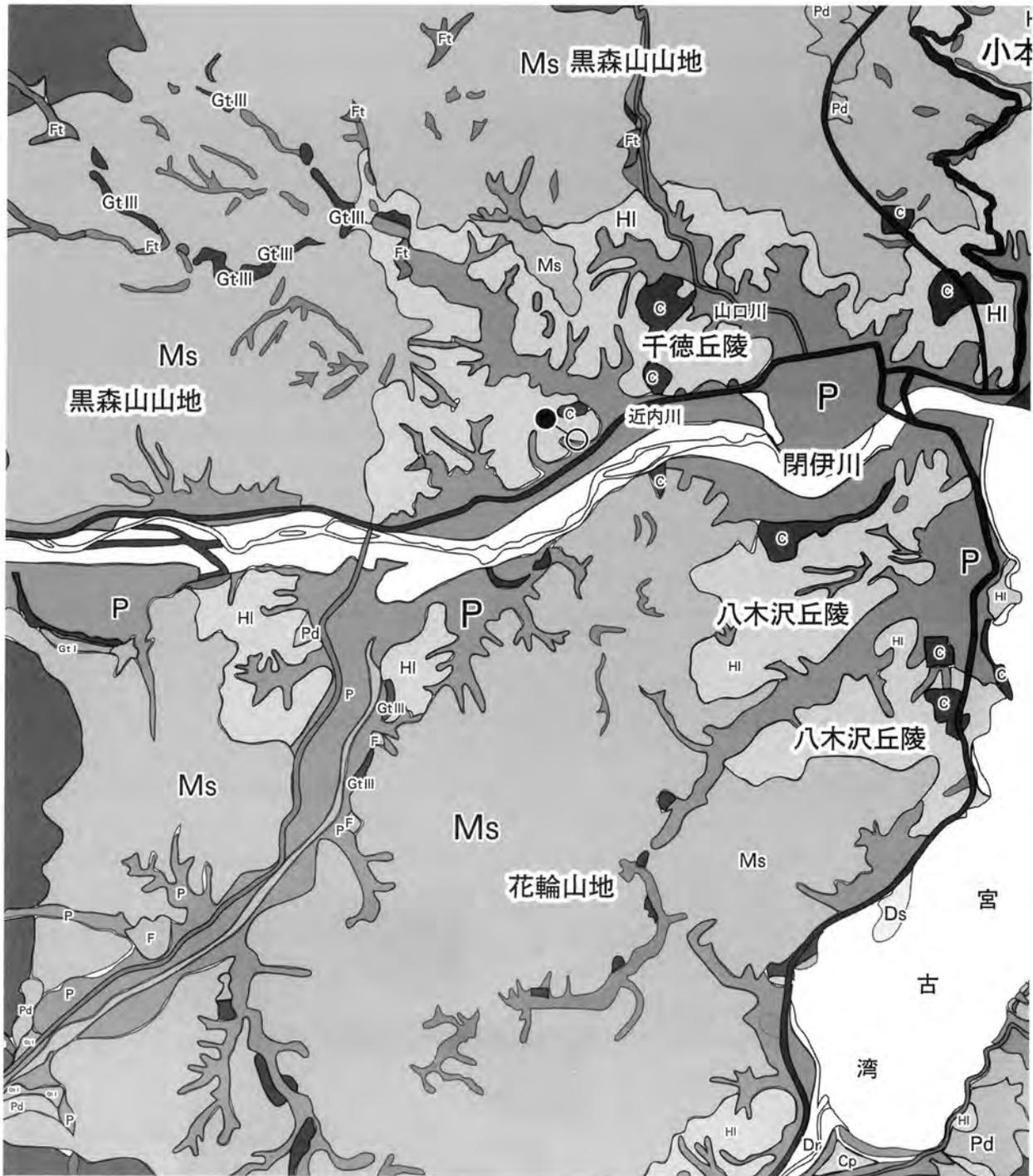
野外調査 山崎日日雄 伊藤勝夫 佐々木亨 舘崎禮子 金澤勝
資料整理 山崎日日雄 佐々木厚子 中村明子 平山早予子 崎尾由美子



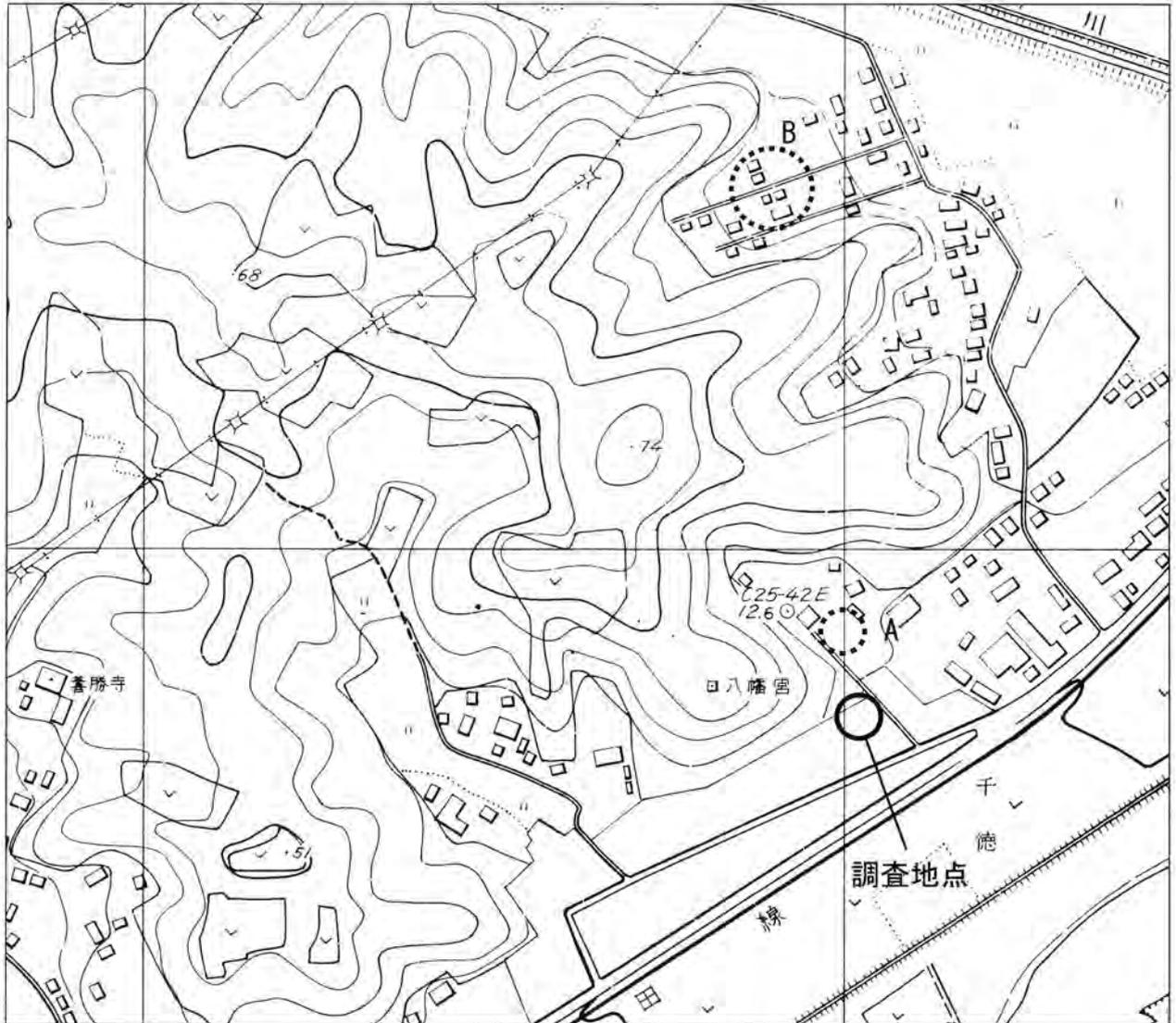
遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構
LG22-2104	蜂ヶ沢 I	縄文時代前期・後期・鉄滓・土師器
-2055	横内川	縄文時代中期土器・土師器
-2059	近内中村	縄文時代前～晩期・土師・須恵器
-2133	近内踊場	
-2162	近内内館	城館遺跡・主郭・帯郭・物見台
-2194	近内白石 I	鉄滓・フイゴ羽口
-2196	近内大館	城館遺跡
-2197	近内白石 II	縄文時代後期土器・土師器・須恵器
LG33-0087	室井沢 I	縄文時代中期・後期土器・土師器
-0099	神田沢	縄文時代中期土器・土師器
-1008	室井沢 II	
-1019	板屋 I	
-1120	板屋 II	
-0197	千徳城遺跡群	城館遺跡(千徳城・掘合館) 土師器
-1273	木戸井内	縄文時代土器・竪穴
LG42-1237	寺沢 II	縄文時代土器
LG23-2231	山口駒込 II	鉄滓
-2244	山口駒込 I	縄文時代早期～後期・土師器・須恵器

遺跡コード	遺跡名称	遺物・遺構
-2246	天神山	縄文時代土器・土師器・須恵器
-2282	延所	縄文時代土器
LG33-0207	狐崎	縄文時代土器
-0218	泉町狐崎 II	奈良・平安時代土器・鉄器
-0226	長根 V	
-0225	長根 IV	
-0202	青猿 III	縄文時代中期土器・土師器
-0220	青猿 I	
-0222	青猿 II	土師器・弥生式土器・竪穴
-0138	近内寺本	縄文時代中期土器・土師器・須恵器
-0148	近内寺本	土師器
-0234	長根 III	土師器
-0236	長根寺 I	寺院跡
-0247	長根寺 II	縄文土器・土師器
-0238	泉町狐崎 III	
-0257	長根寺 III	
-0246	長根 II	土師器
-0253	長根 I	城館遺跡

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第 2 図 地形分類図



第3図 周辺の地形と試掘調査地点A, B

1-4 立地と環境

岩手県宮古市は沿岸のほぼ中央に位置し、太平洋を望む水産都市である。昭和16年に宮古町と山口村、千徳村、磯鶏村が合併して宮古市が誕生している。宮古湾を有し、古くは江戸・長崎向けの海産物の積出し港、北海道松前への中継港として栄えた。その「港町」は近年内陸の新里村、川井村と合併し、「海と山の町」となり、市域を大きく拡大している。景勝地にも恵まれ、三陸復興国立公園「浄土ヶ浜」をはじめとして、本州最東端の地である鮭ヶ崎あたりから北に向かう海岸線に沿って雄大な風景が連なる。

宮古湾には閉伊川、津軽石川の二大河川が流れ入り、遺跡の大半がその流域、その市流域に分布する。背後の丘陵地には中世の城館跡などが広く分布し、地名が城館の主の名前となって残されている例も多い。またそれらの城館跡が古代の集落と重なる調査例もいくつか報告されている。

2 調査内容

2-1 基本層序

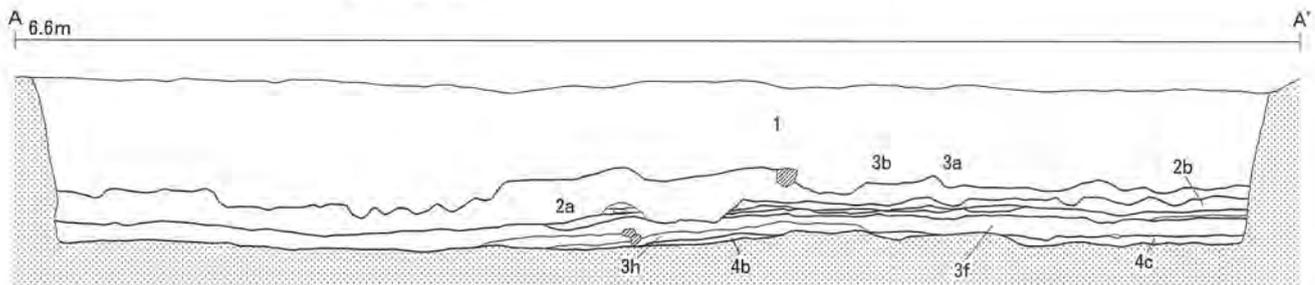
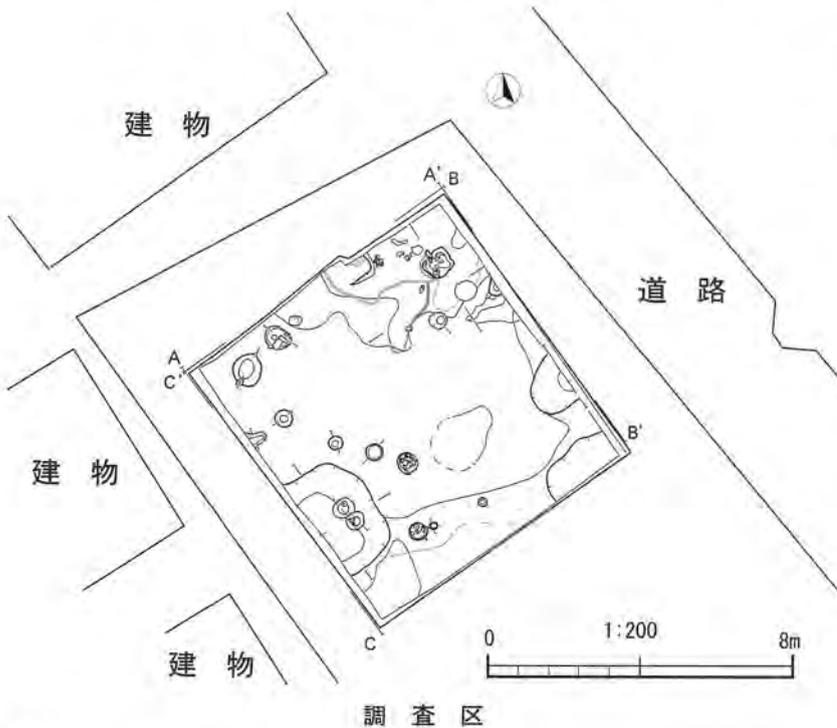
調査区は「千徳城遺跡群」の南東部に位置する。現状は周辺に家が立ち並ぶ山裾の平坦地である。

調査は地山面まで掘下げる方法で行おうとしたが、盛土層の下の厚い自然堆積層は掘り切れずに終了した。盛土層から近代、近世の遺構が出土し、近世の遺構は3期に分かれる。

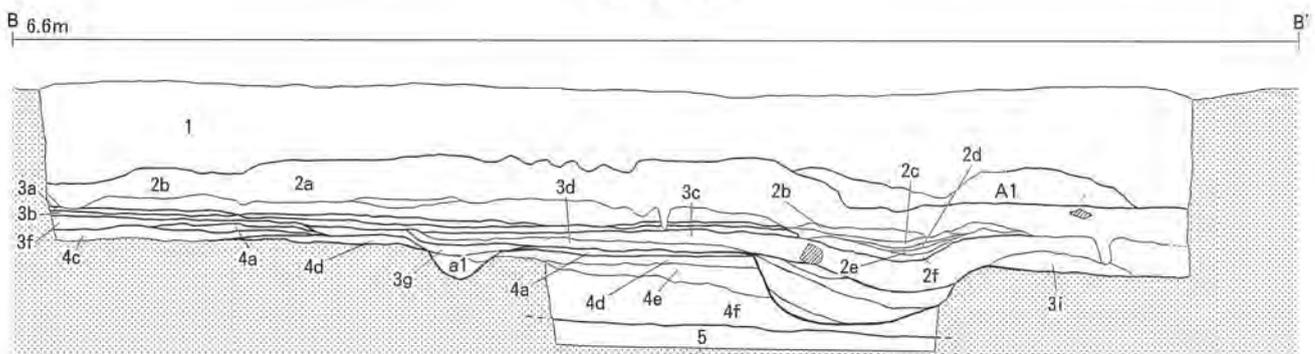
第4図は調査区の北壁面と東壁面の堆積層である(写真17、18)。堆積層は5層に大別される。

1層は近、現代の盛土層である。大量の瓦礫を含む。

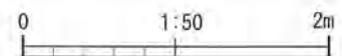
2層は自然堆積層である。近代の石組みの掘り込み面である。粗い砂礫土、シルト質の砂土などに分層される。



北壁面



東壁面



第4図 調査区土層堆積状況 北壁、東壁

3層は人為的な堆積層である。Ⅰ期遺構群の検出面である。3 a層は北東部に広がる焼土、炭、粘土などの多く混入する黒褐色土である。3 b層は3 a層とまったく分布を同じくするシルト質の灰褐色土である。遺物の大半が3 a層から出土している。3 cから3 h層は主に砂土からなる盛土層である。近世の遺物を含む包含層である。

4層は盛土層である。Ⅱ期遺構群の検出面である。焼土、炭などの混じる黒色土、貼床層、シルト質の砂土などに分層される。北側に広がる4 b層から主に遺物が出土している。

5層は自然堆積層である。炭、焼土などを含むが、遺構は検出していない。厚い湿地層である。

2-2 検出した遺構と遺物

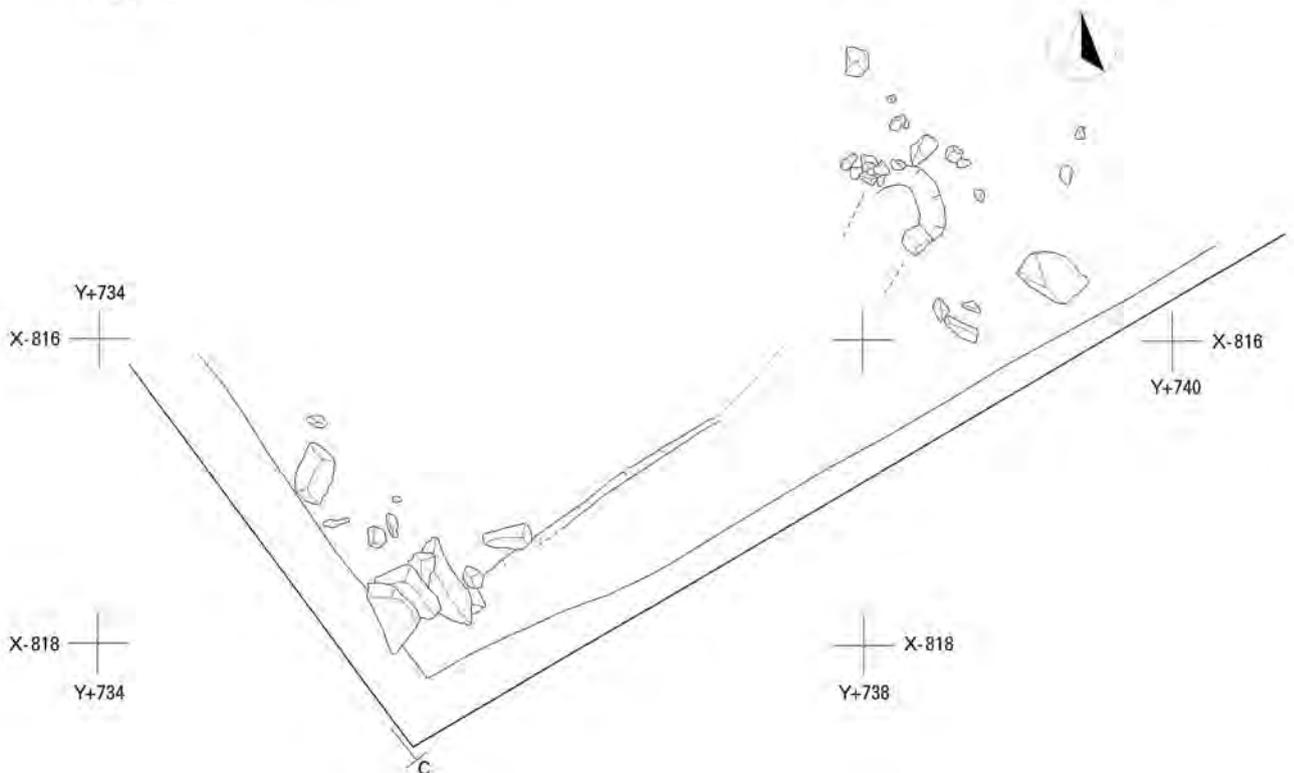
1 近代の遺構石組み(第5、6図 写真1)

調査区南西部に位置し、検出面は2層である。石組みは盛土の土留めの使われたもので、盛土には焼けた灰混じり粘土などが混じっていた。石組みは東西方向に並ぶ。

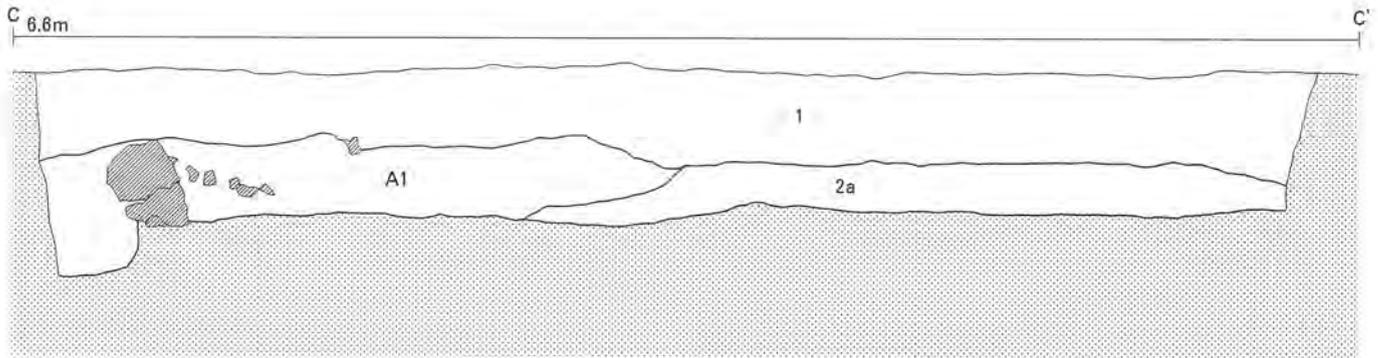
盛土A 1層から遺物は出土していないが、2 a層から「一銭硬貨」、掌大の軽石などが出土している。石組みは、出土層位、遺物などから明治以降に伴う遺構である。

出土遺物(第7図)

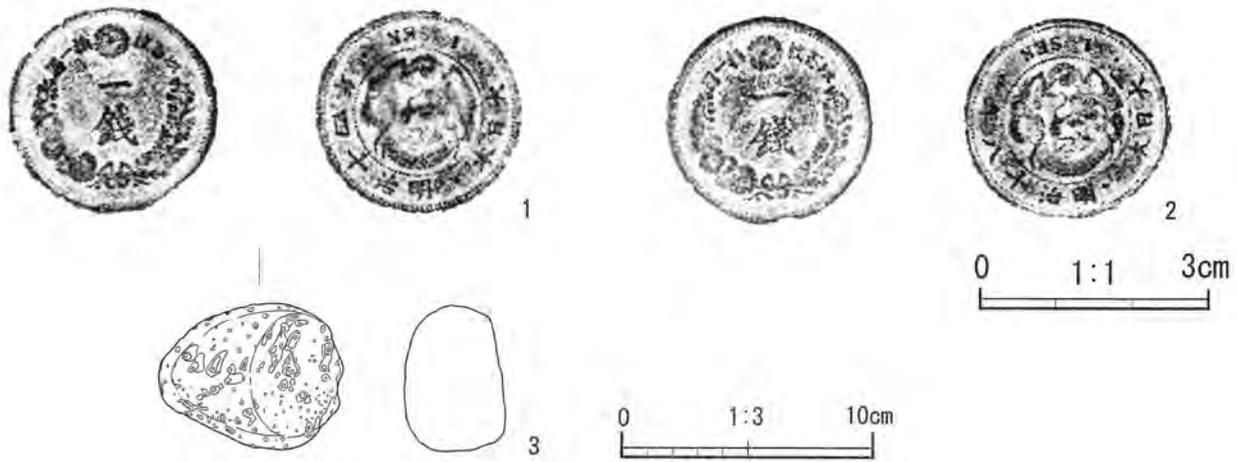
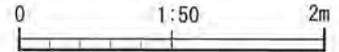
1、2は「一銭硬貨」である。1は明治14年、2は明治18年の発行である。3は掌大の軽石である。



第5図 石組み



第6図 西壁面土層堆積状況



第7図 2層出土遺物

第4、6図土層観察表

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
1	灰黄褐色土、礫混じり		
2a	10YR4/2 灰黄褐色シルト質壤土	10YR2/3 黒褐色シルト 10%	中～固、中～密・塊・陶磁器、近現代
2b	10YR5/4 にぶい黄褐色砂土	10YR4/4 褐色砂土塊状 10%	固、疎・塊 砂礫層
2c	10YR3/2 黒褐シルト質壤土	10YR6/2 灰褐シルト質壤土 3%	中～固、密・塊
2d	2.5YR4/2 灰赤砂壤土	10YR4/2 灰黄褐砂壤土 2%	固、中・塊
2e	10YR3/2 黒褐シルト質壤土	10YR4/4 褐シルト質壤土塊 1%	中～固、密・塊
2f	10YR5/6 黄褐砂壤土	10YR4/4 褐シルト質壤土塊 10%	中～固、密・塊
3a	10YR2/3 黒褐色シルト質壤土(やや粘る)	5YR4/4 にぶい赤褐シルト層状 3%	中～軟、中～密、塊、炭、焼土(多) 鉄製品釘(多)
3b	2.5YR3/3 暗赤褐シルト質壤土(やや粘る)	2.5YR3/1 暗赤褐シルト質壤土塊 10%	中～軟、密、塊、上面に遺物
3c	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐砂壤土 10% 10YR6/3 にぶい黄褐砂壤土 10%	固、中・塊・陶器
3d	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR2/1 黒色砂壤土塊 10%	固、中・塊
3e	10YR6/6 明黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐シルト質壤土塊 10%	固、密・塊
3f	10YR3/4 暗褐色シルト	2.5YR4/4 にぶい赤褐砂塊 3%	中～固、中～疎、塊・鉄製品、陶磁器
3g	10YR5/6 黄褐砂壤土	10YR4/4 褐砂壤土塊 10%	固、中・塊
3h	10YR2/2 シロ質壤土	10YR3/3 シロ質壤土 5%	中～軟、密・塊
3i	10YR4/2 灰黄褐シルト質壤土	10YR5/3 にぶい黄褐砂壤土 2%	中～固、密・塊
4a	10YR4/2 灰黄褐砂壤土	10YR4/2 灰黄褐砂壤土層状 20%	固、密、塊・非常に固い
4b	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR5/3 にぶい黄褐シルト質壤土 2%	中～軟、密・塊・釘
4c	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐砂壤土塊 3%	固、中・塊
4d	10YR5/3 にぶい黄褐砂壤土	10YR3/4 暗褐砂壤土 10%	中～固、中・塊・上部鉄製品
4e	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR4/2 灰黄褐壤土シロ質壤土 2%	固、密・塊
4f	10YR5/3 にぶい黄褐色砂土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土 10%	中、中～疎・塊・簀、砥石
5	10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/4 褐シルト質壤土塊 5%	中、中～密・塊・焼土少 湿地
A1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐色埴壤土塊状 10% 5YR4/6 赤褐シロ質壤土塊状 10%	中、中

2 Ⅰ期遺構群（第8図 写真2～4）

遺構は調査区北東部に位置し、検出面は3層上面である。遺構群は北東部の炭、焼土、粘土などの広がり、その中に位置する6基の炉跡、3基の土坑跡などから構成される。

炭、焼土、粘土の広がり（3a層）は、平面形は方形で（点線）、傾きは水平に分布する。3a層からは遺物の大半が出土している。3b層は3a層と同じ範囲に分布する。シルト質のやや軟質な土で、貼床のように固くはない。

このうち6基の炉跡については、床面から多量の炭などが出土していることから炉跡として記録した。そのうち3基（3号、4号、6号）については、掘くぼめた跡もなく、炉跡ではないという判断で、写真のみの記録に留めた。これらの遺構は、等間隔で長方形にならぶことから、建物の柱礎石跡の可能性が高い。その点は「調査のまとめ」で検討したい。

1号炉跡（第9図 写真3、4）

北東部の隅に位置する。平面形は楕円形を呈し、規模は70cm×55cm、深さは10cmである。底面に多量の炭が残されていた。炉床はそれほど焼けていない。また粘土などで下部構造を設けたりしていない。

出土遺物（第10図 1、2）

1、2は角釘である。2は木質を残す。

2号炉跡（第9図 写真3、4）

北東部の南寄りに位置する。平面形は不整形で、径は約60cm、深さは10cmである。a1層には多量の炭が含まれている。底面は硬くなるほど焼けてはいない。また下部構造も設けていない。

出土遺物（第10図3～7）

3～7は角釘である。

5号炉跡（第9図 写真3、4）

2号炉跡の西側に位置する。平面形は円形で、径60cm、深さ10cmである。a1層には多量の炭、焼土塊の他に燃えさしの木片が含まれていた。底面は焼きしまつてはいない。

出土遺物（第10図 8～12）

8は銅銭の「寛永通宝」である。9～12は角釘である。

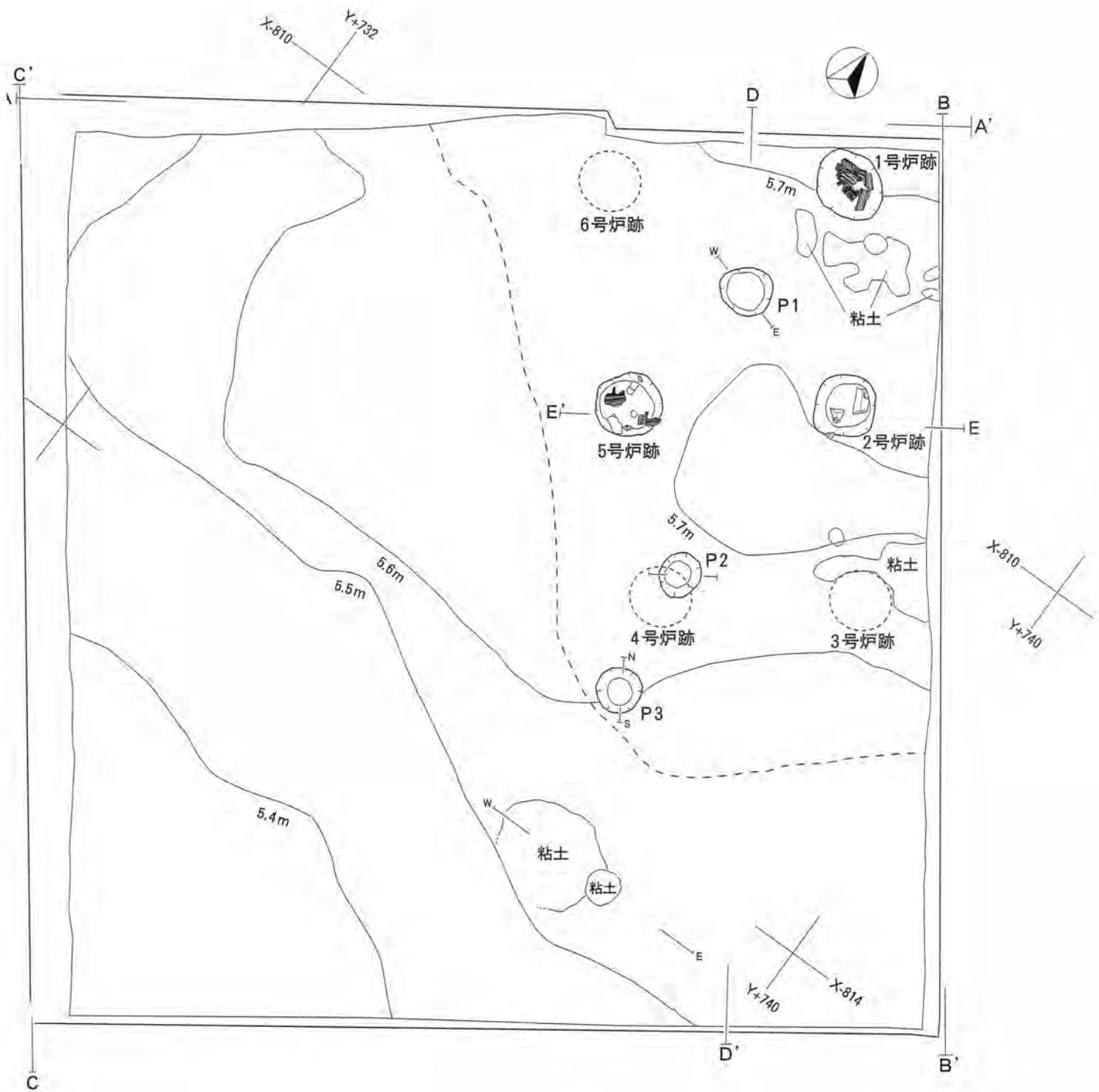
ピットP1～P3（図9）は北東部を南北方向に並ぶ。いずれも浅く、柱痕など観察できるものはなかった。

出土遺物（第10図 13）

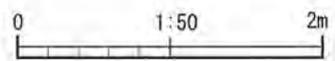
13はP3から出土した木質の付着した鉄塊である。

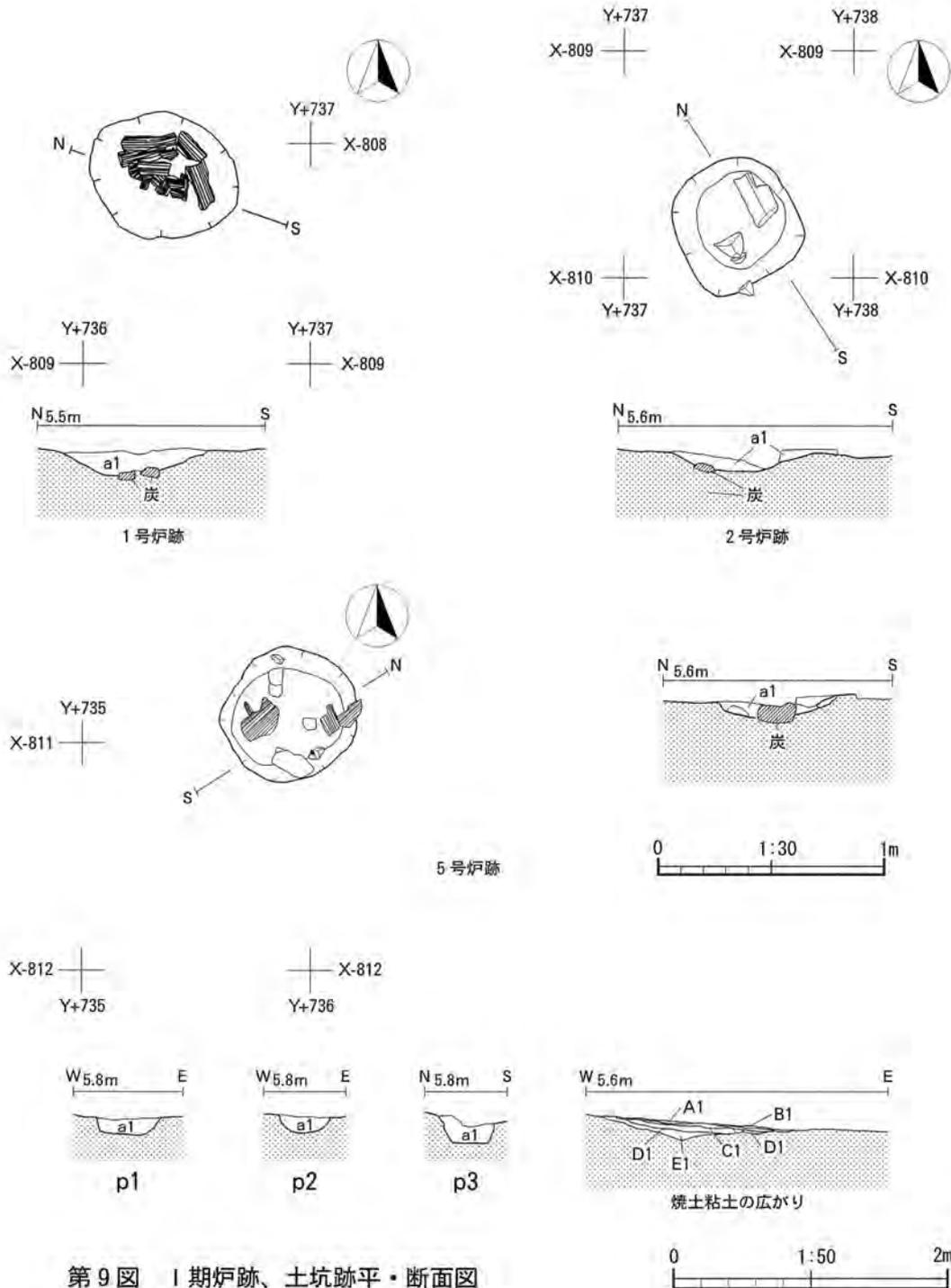
焼土、粘土の広がり（第8、9図）

中央の南寄りに位置する。検出面は3c層である。焼土、粘土とも円形の広がりである。層厚は薄く、一様である。炉などの構造は観察できなかった。二次堆積と思われる。遺物は出土していない。

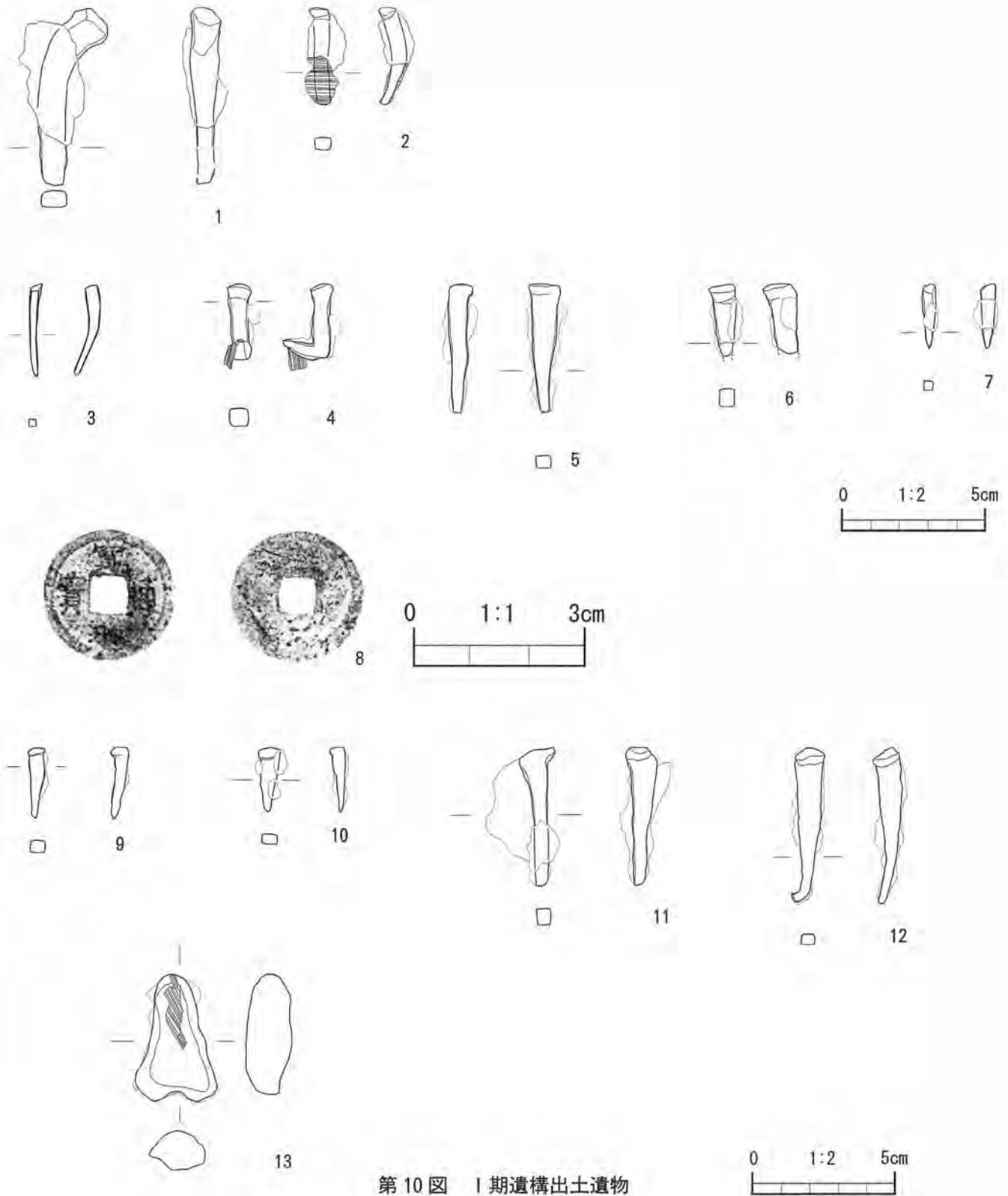


第8图 I期遺構群配置图



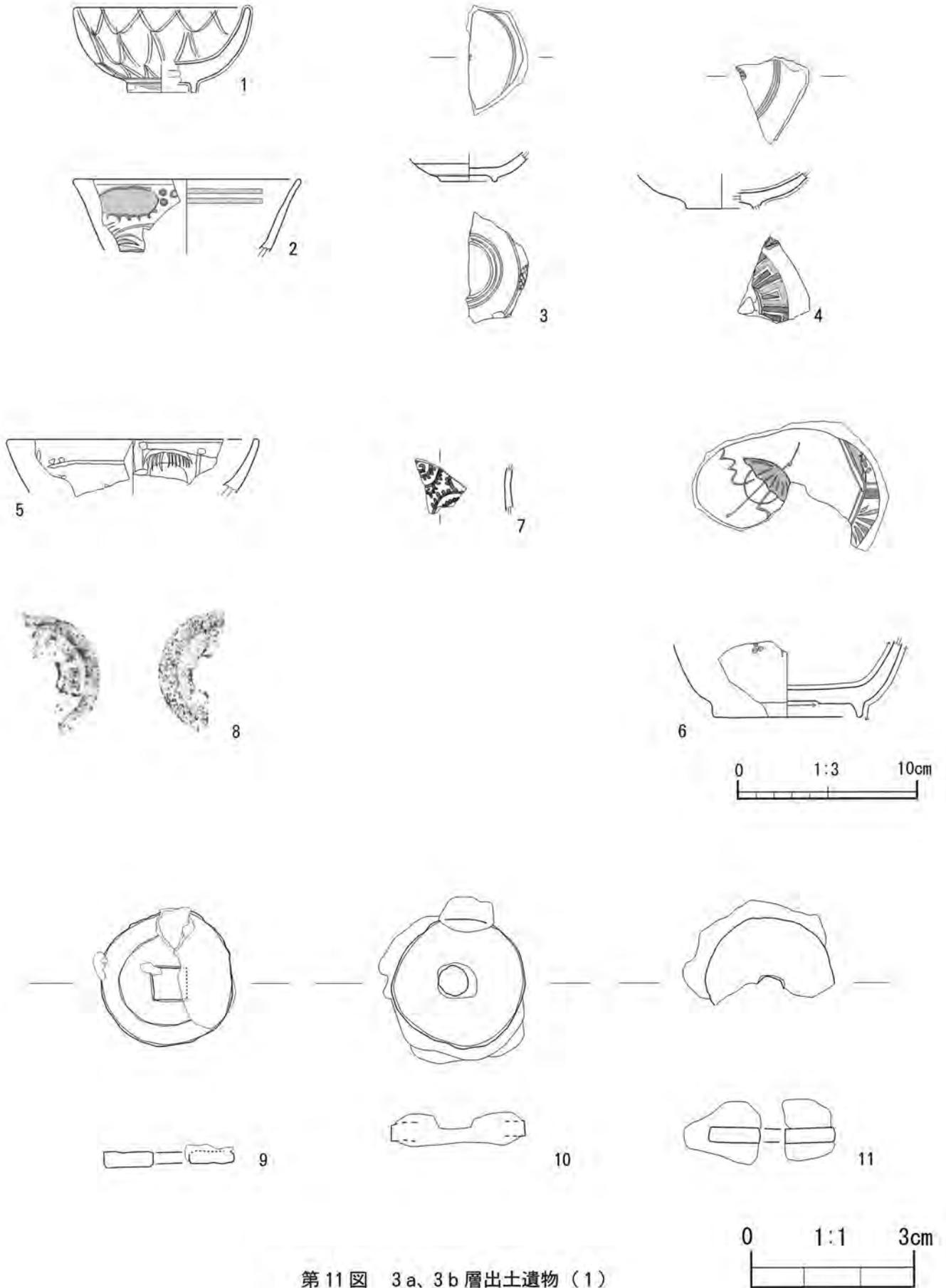


層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
1号炉跡 a1	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質壤土	5 YR4/4 にぶい赤褐シルト質壤土 3% 2.5YR2/3 極暗赤褐色シルト 10%	軟、中～密、塊、炭(多)
2号炉跡 a1	10YR2/3 黒褐色シルト質壤土	7.5YR4/3 褐シルト質壤土 10% 5 YR4/3 にぶい赤褐シルト質壤土 3%	軟、中～密、塊、炭(多)
5号炉跡 a1	10YR2/3 黒褐色シルト質壤土	5 YR4/3 にぶい赤褐焼土シルト質壤土 5% 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質壤土 3%	軟、中～密、塊、炭(多)、焼土塊(多)
P1 a1	10YR3/4 暗褐シルト質壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質壤土塊 3%	中程度、中～密、塊、炭(少)
P2 a1	10YR4/4 褐色砂土	10YR3/4 暗褐色砂土 10%	中程度、中程度、塊
P3 a1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 10%	中～軟、中～疎、塊、鉄製品 2点

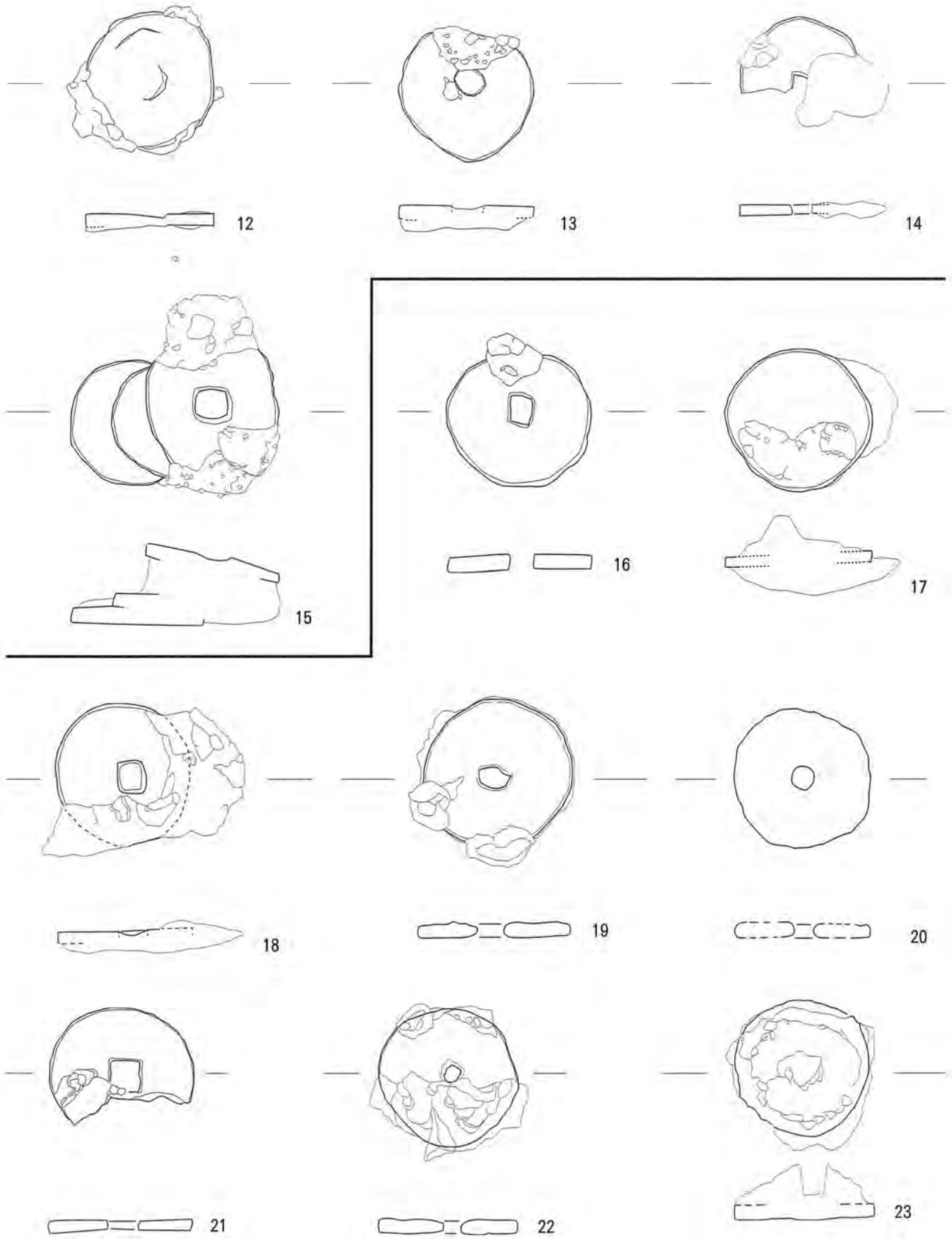


第10図 I期遺構出土遺物

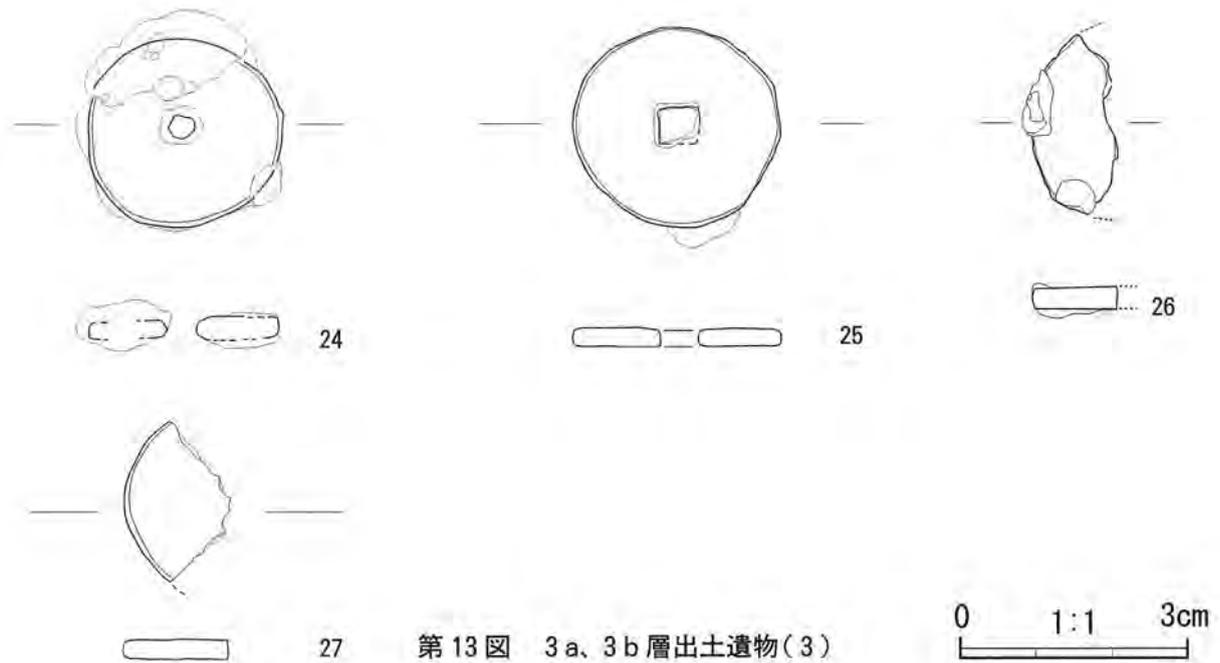
層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
焼土粘土)	A1 焼土 5 YR4/4 にふい赤褐シルト質壤土	10YR5/4 にふい黄褐壇壤土 3%	中～固、中～密、塊
	B1 粘土 10YR5/8 黄褐シルト質壇土	10YR5/4 にふい黄褐壇壤土 3%	固、密、塊
	C1 10YR3/4 暗褐シルト質壇土	10YR5/3 にふい黄褐砂壇土塊 3%	固、密、塊
	D1 10YR5/8 黄褐シルト質壇土	10YR3/4 暗褐シルト壇土 塊 10%	中～固、中～密、塊
	E1 10YR3/2 黒褐シルト質壇土	10YR4/3 にふい黄褐色シルト質壇土 10%	中～固、密、塊



第11図 3a、3b層出土遺物(1)



第12図 3a、3b層出土遺物(2)



第13図 3a、3b層出土遺物(3)

3 3a、3b層出土遺物(第11図～第17図)

北東部に分布する3a、3b層から出土した遺物をまとめた。

1～4は染付け磁器の碗である。1は外面に二重網目文を施した碗である。肥前産の「くらわんか手」に属し、年代は18世紀代に伴う。2は胴部が直線的に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する碗である。外面に草文を施す。瀬戸美濃系の反り碗と思われる。18世紀に伴う。3は外面に井桁文を施す碗である。肥前系で19世紀代に伴う。4は外面に幾何文を施す碗である。産地、年代は不明である。5は染付の皿である。外面に唐草文、内面に笹文を施す。肥前系で19世紀代に伴う。6は染付鉢である。蛇ノ目凹型高台である。内面に草文、見込みに蔓草文を施す。産地、年代不明。7は蛸唐草文を施された磁器片である。徳利の頸部と思われる。肥前産、18世紀～19世紀に伴う。

8～27は錢貨である。

8の1点が銅錢で、その他は鉄錢である。

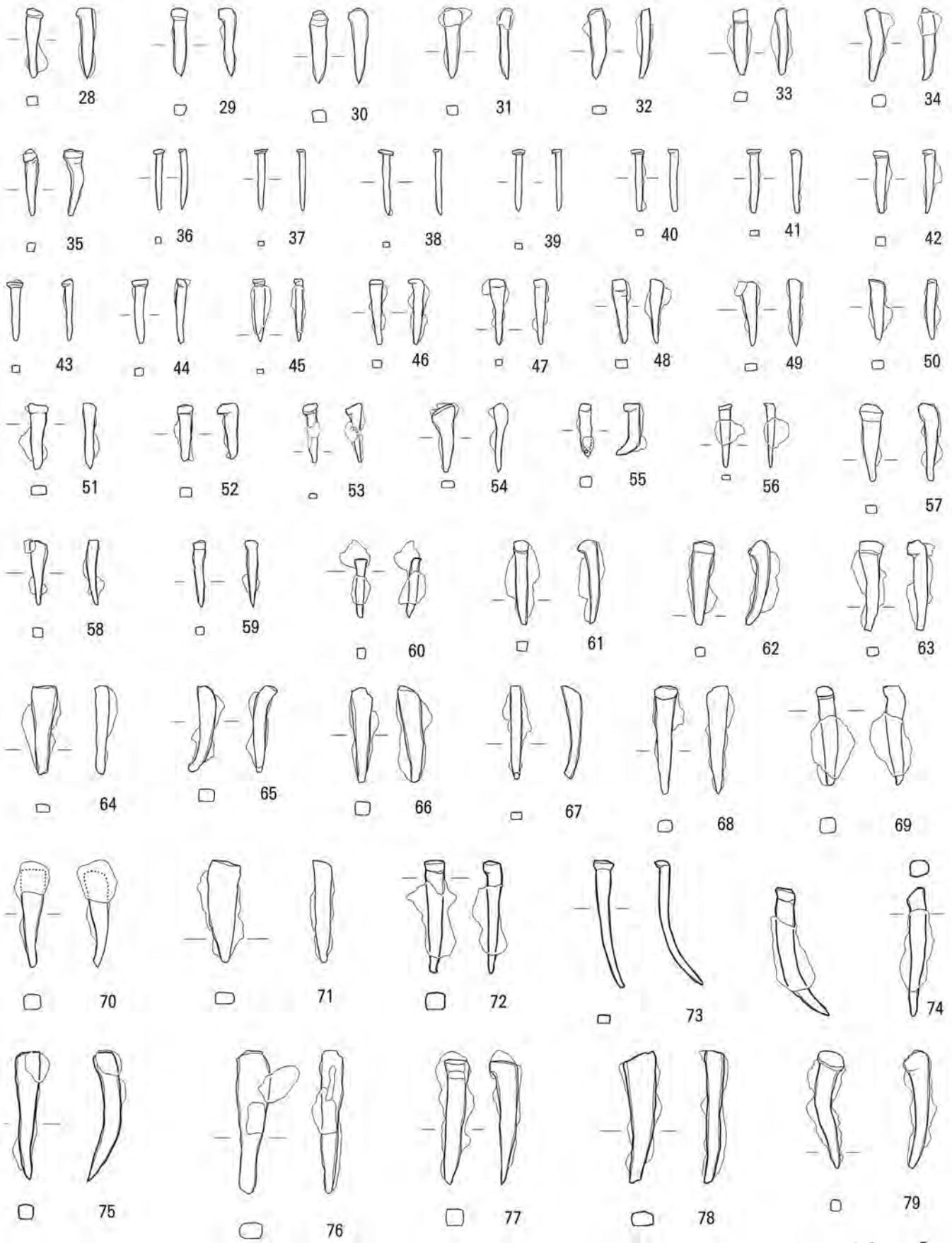
8は銅錢の「寛永通宝」である。鉄錢は、銅錢「寛永通宝」と同径のもの(9～15)とそれより径が大きいもの(16～27)に分かれる。

28～155は角釘である。

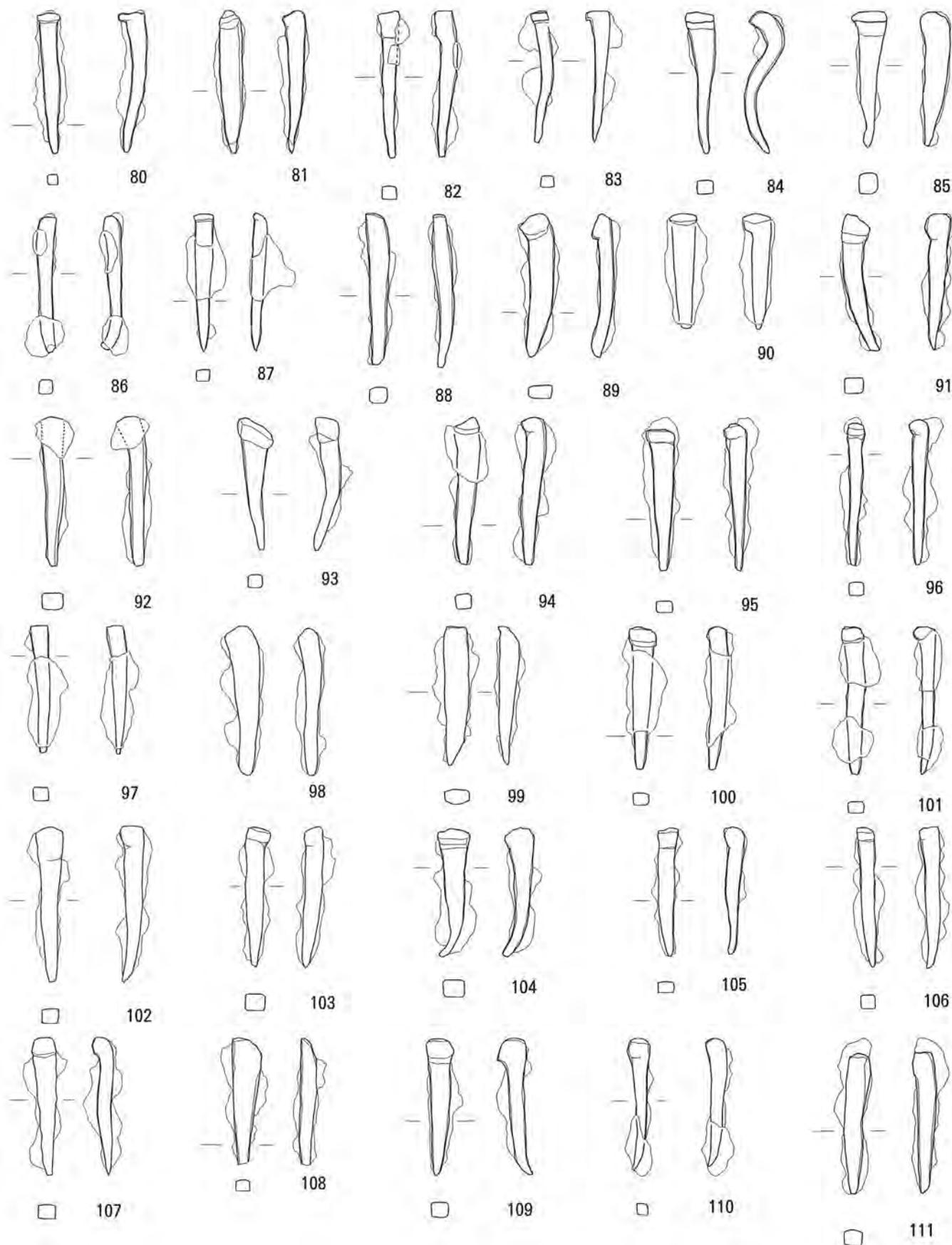
出土数が一番多く、図化できたものだけで129点である。長さ、太さは変化に富んでいる。なかでも写真で示した細いタイプの錆びの少ない一群が注目される(写真は実寸で載せた)。

156～158は石製品である。

156は砥石である。4面の摩面を持ち、1面には炭化物が付着する。157、158はスレート板である。

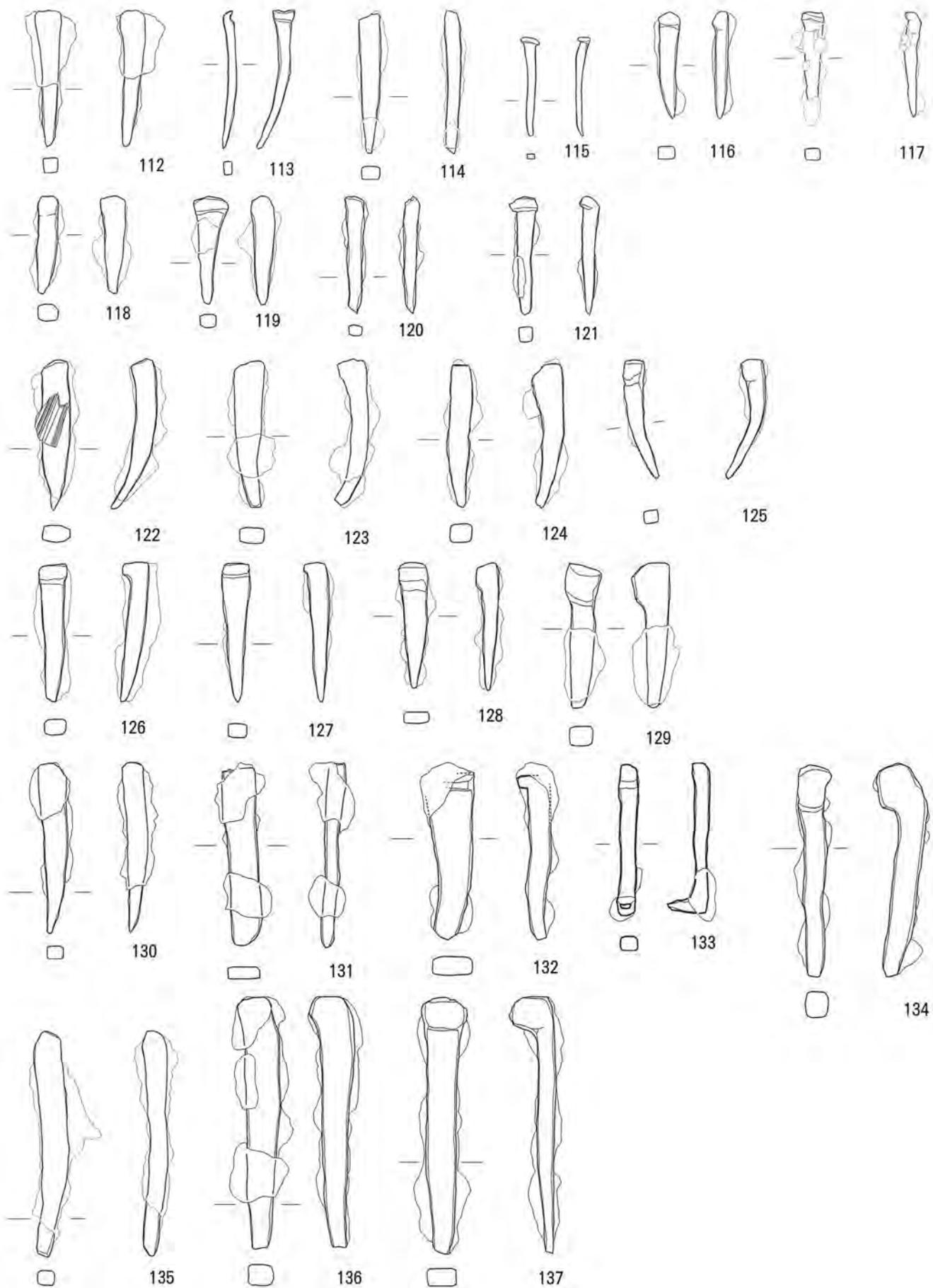


第14图 3a、3b層出土遺物(4)

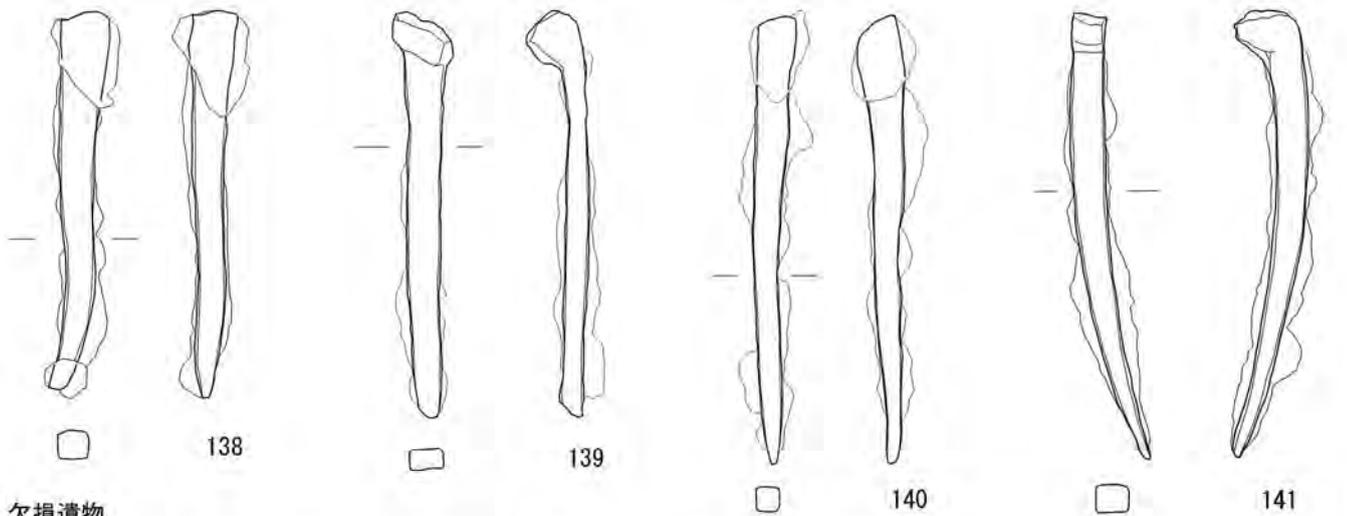


第 15 图 3 a、3 b 層出土遺物(5)

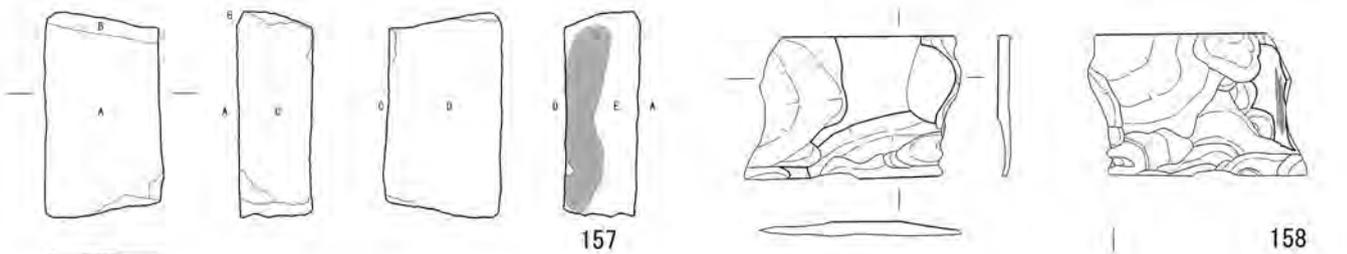
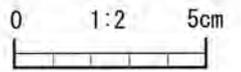
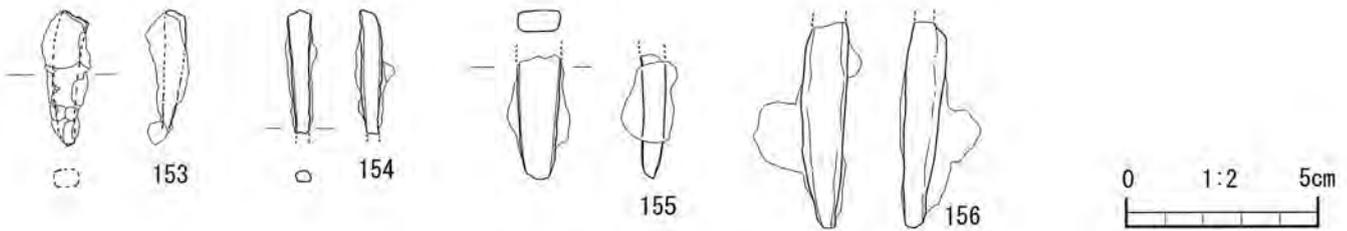
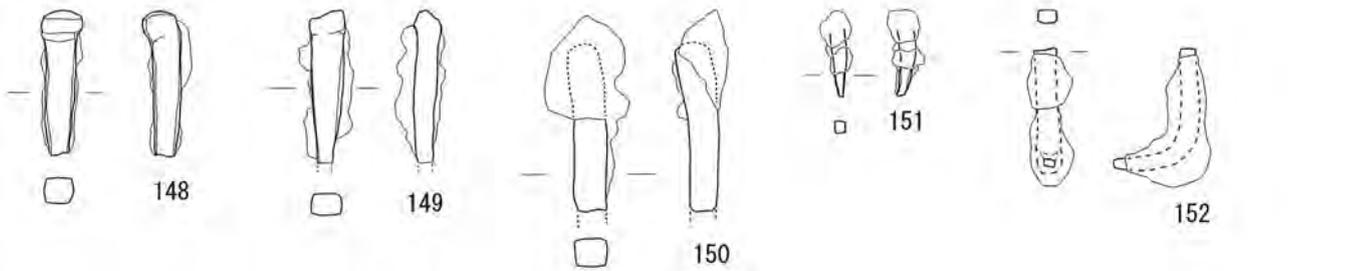
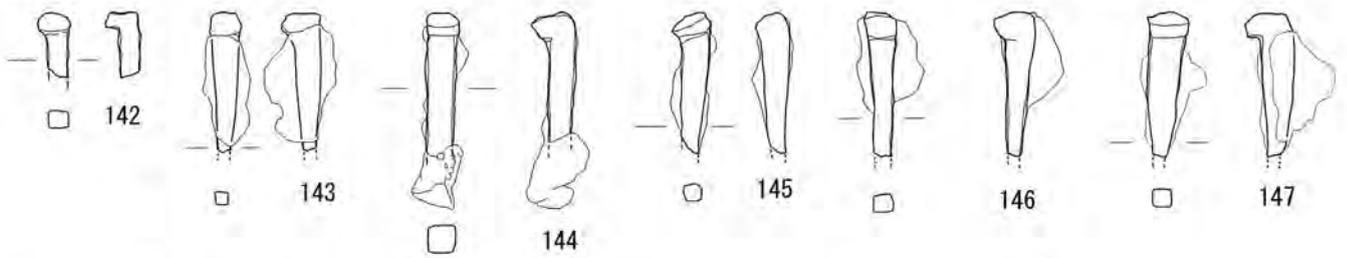
0 1:2 5cm



第16图 3a、3b层出土遗物(6)

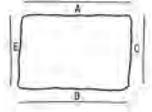


欠損遺物

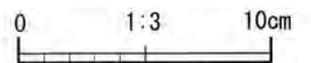


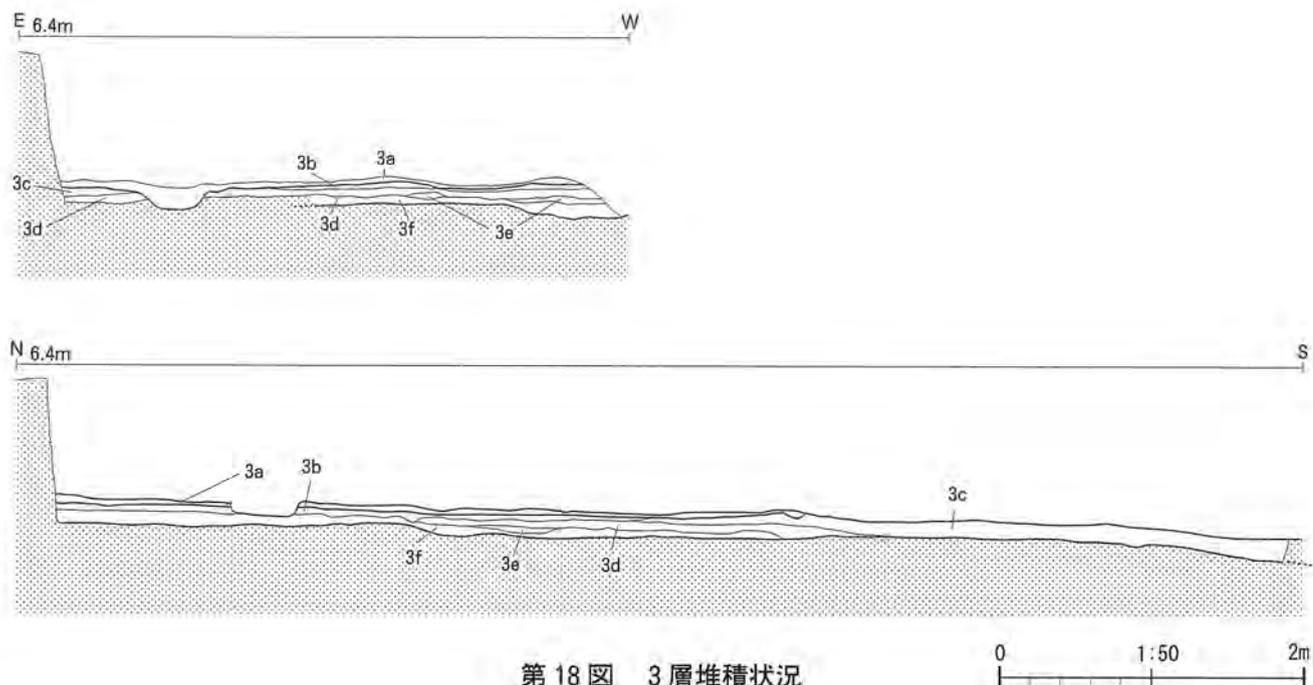
157

158



第17図 3a、3b層出土遺物(7)





第 18 図 3 層堆積状況

4 II 期遺構群の検出状況

3 層の堆積状況(第 18 図 写真 5)

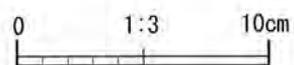
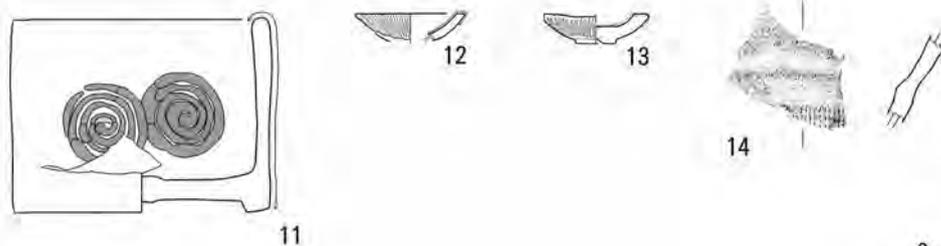
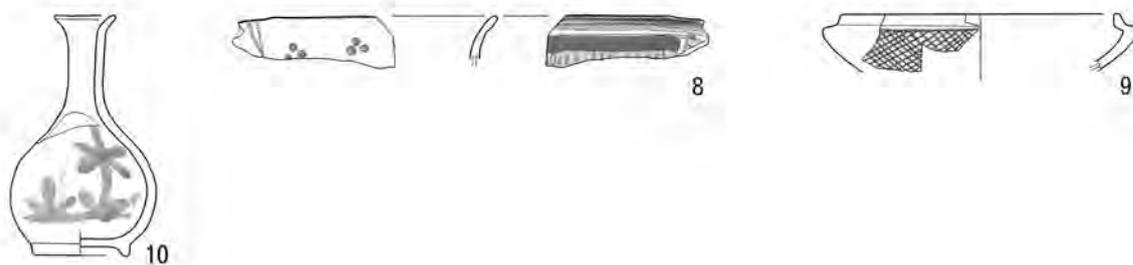
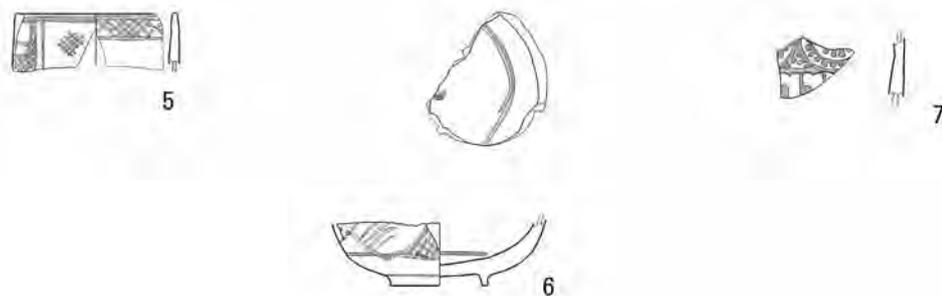
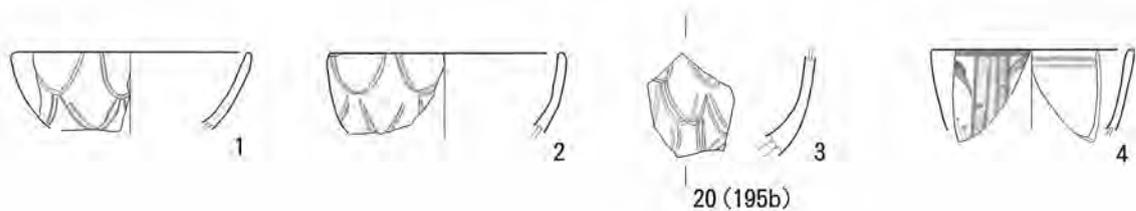
3 a、3 b 層は前述のとおり北東部に分布し、多量の遺物を含む。3 c～3 e 層は中央から南東部かけて堆積する盛土層である。3 f 層は西寄りに広く分布し、遺物を多く含む。

遺構外出土遺物(第 19 図、20 図)

3 a、3 b 層以外から出土した遺物、主に西側の 3 f 層から出土した遺物をまとめた。

1～15 は陶磁器である。1～10 は染付磁器である。

1～3 は二重網目文を施した碗である。肥前産で、18 世紀代に伴う。4 は外面に竹林文を施した碗である。肥前系で 19 世紀に伴うものと思われる。5 は内外面に格子文を施した碗の口縁部である。産地年代は不明である。6 は外面に窓絵で格子文を施文した碗である。産地年代は不明である。7 は蛸唐草文の胴部片である。徳利の頸部か。肥前産、18 世紀～19 世紀に伴う。8 は角鉢の口縁部と思われる。外面に花文、内面にボカシ文を施す。肥前系と思われる。年代不明である。9 は格子文を施された香炉である。産地、年代は不明である。10 はらっきょう形の徳利である。外面は松文を施文される。肥前産、18 世紀に伴う。



第 19 図 遺構外出土遺物(3層)(1)



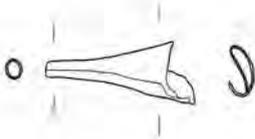
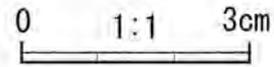
17



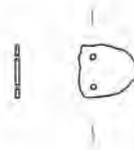
18



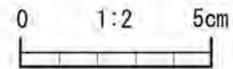
19



20



21



第20図 遺構外出土遺物(3層)(2)

12は陶器である。筒状の香炉である。白濁釉を掛けられ、鉄釉で渦巻き文を施される。産地、年代は不明である。12、13は紅皿である。14は黒色釉を施された播鉢である。

15～18は銅銭の「寛永通宝」である。

19は土製品の泥面子である。人面を型に取ったものである。

20、21は銅製品である。20は煙管の吸い口である。21は足袋のこはぜである。

5 II期遺構群（第21図 写真6～13）

II期遺構群は炉跡、土坑跡などから構成される。

北東の隅で貼床、炉跡が出土し、その西側に焼土、粘土混じりの黒色土が広がる。周辺部を大、小規模の土坑跡が囲む配置である。

1号炉跡（第22図 写真11、12）

北東部で貼床、焼土、粘土混じった広がりを検出した。炉跡はその貼床面で検出した。検出時、焼土面は方形に近い形で、炉床には焼土塊が広がり、西側の縁部は還元炎焼成を受けていた。焼土塊は炉床が割れたものである。焼土面範囲は、70cm×60cmである。下部構造を持ち、炉床の下に炭と灰を交互に敷いている。構築時には、楕円形に掘り込んでいる。規模は90cm×70cm、深さ約15cmである。

出土遺物（第29図 1～5）

1～4は1号炉跡の周辺部からセットで出土した遺物である（写真8）。1は紅皿である。2～4は銅製品である。3は簪^{かんざし}である。3は簪に付いていたと思われる円形の装飾品である。4は斧^{つがい}である。5は煙管の吸い口である。

1号焼土遺構（第23図）

北壁壁際の中央部に位置する。検出面は4c層上面である。平面形は不整形である。焼土の東側から南側にかけて小さな段差を設けている。段差の下部から小ピットが検出している。周辺部で釘、鉄滓などが出土しており、鍛冶仕事に使用した炉の可能性もある。鍛造剥片は検出していない。

9号、14号土坑跡（第21、24図）

いずれも貼床面から出土した浅いピットである。P9からは遺物が出土している。

出土遺物（第29図 6）

6はP9から出土した染付磁器の皿である。見込みに五弁花文が施される。肥前産、18世紀後半に伴う。

15号土坑跡（第25図 写真7）

調査区の中央、やや南寄りに位置する。検出面は4a層である。平面形は円形で、径は約90cm、深さは25cmである。陶器が埋まった状態で出土している。埋土に炭、焼土、粘土塊が多く含まれていたため炉跡として検出した土坑跡である。壁、床面とも焼けておらず、下部構造なども設けていない。

出土遺物（第30、31図 20～25）

20は陶器の大型の甕である。平縁の口縁部をもち、口径は約40cmである。内面に指の押圧痕を残している。産地、年代は不明である。21～25は鉄製品である。21～24は角釘である。25は湾曲した板状の製品である。

16号土坑跡（第25図）

南部やや西寄りに位置する。検出面は4a層である。平面形は円形である。規模は径50cm、深さ15cmで、15号土坑とほぼ同規模である。埋土に多量の炭、鉄製品などが含まれる。

出土遺物（第 31 図 26～33）

26～33 はいずれも鉄製品の角釘である。30 は大きく、船釘状の製品である。

12号炉跡（第 25 図 21、25）

調査区の南部中央に位置する。平面形は円形、径約 25 cm である。深さは 5 cm である。埋土は多量の炭を含み、床面もわずかに焼けている。小規模な炉跡である。遺物は出土していない。

8号土坑跡（第 21、26 図）

南西部に位置する規模の大型の土坑である。検出面は 4 a 層である。平面形は隅丸の方形で、規模は南北約 3m で、深さは 0.4m である。床面は平坦である。埋土はすべて砂礫土である。遺物は埋土層から出土している。

出土遺物（第 28 図 7～13）

7、8 は染付磁器の碗である。7 胴部から直に立ち上がる。外面に窓絵と笹文を施す。肥前系、19 世紀代に伴う。8 は外傾しながら立ち上がり、口縁部でさらに外反する。外面は「草木文」と思われる。瀬戸美濃系と思われるが年代は不明である。9 は塗分け茶碗の高台である。瀬戸美濃産と思われる。年代は 18 世紀代に伴う。10 は紅皿である。11 は墨書土器である。土師器の坏である。墨書は「寿」の字か。

12、13 は鉄製品である。12 は鉄塊である。13 は角釘である。

4号土坑跡（第 21、26 図）

南東部に位置するやや規模の大きい土坑である。平面形は楕円形をなすものと思われ、規模は南北 1.2m、深さ約 40cm である。埋土は上、中層が砂礫土、下層がシルト堆積土である。

出土遺物（第 29 図 14～18）

14～16 は陶磁器である。14 は塗分け茶碗の胴部である。瀬戸美濃産、年代は 18 世紀代に伴う。15 は施釉磁器の碗である。胎土は灰色である。産地年代は不明である。16 は挿鉢である。産地、年代は不明である。

17、18 は鉄製品である。17 は板状の製品である。18 は角釘である。

17号土坑跡（第 21、26 図）

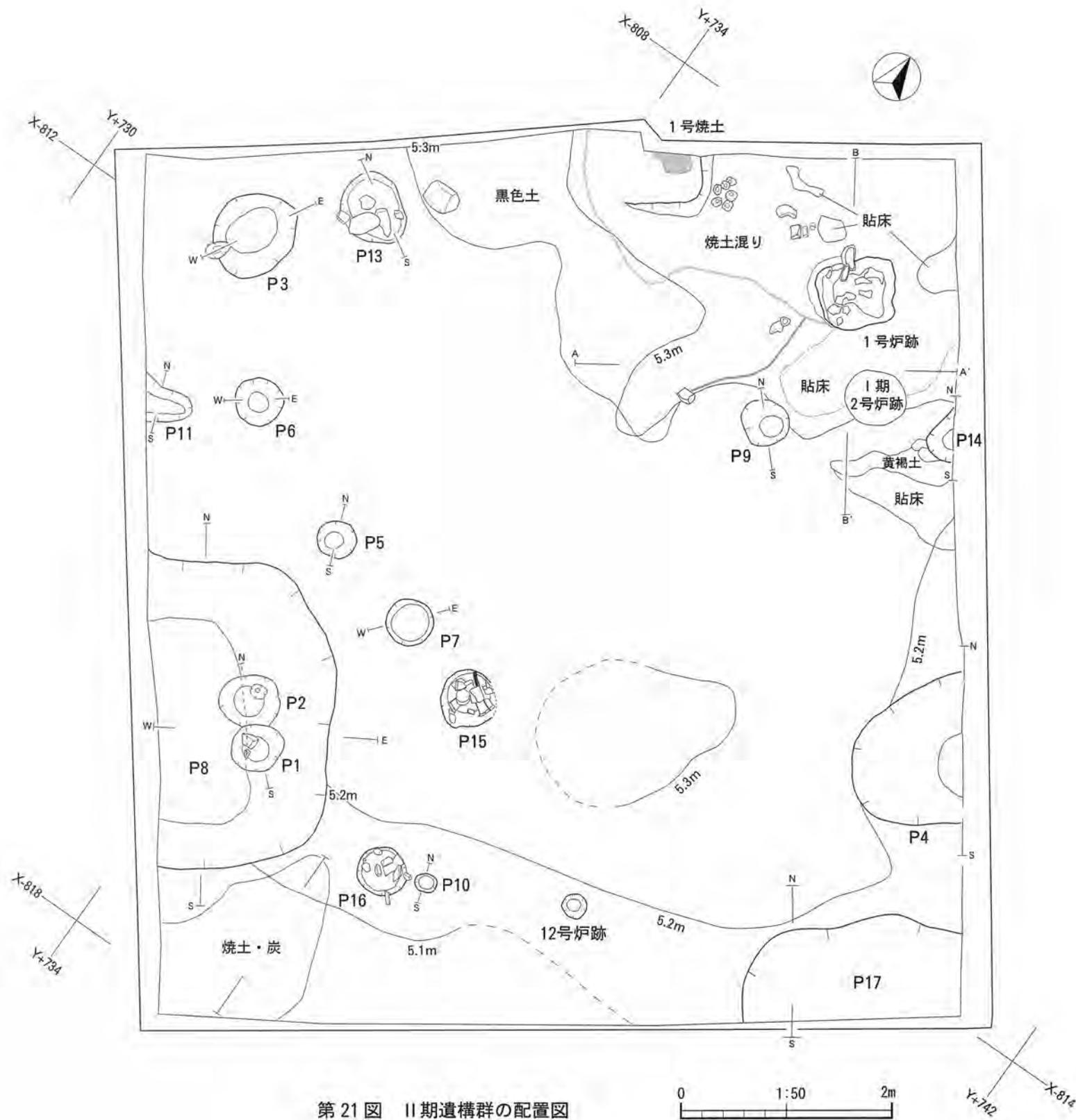
南東部の角に位置する。検出面は 4 層である。土坑跡として検出したが、落ち込みが確認できただけで平面形は不明である。また調査区内では底面を確認できなかった。埋土に礫が多く含まれていたが、遺物は出土していない。

焼土、炭の広がり（第 27 図）

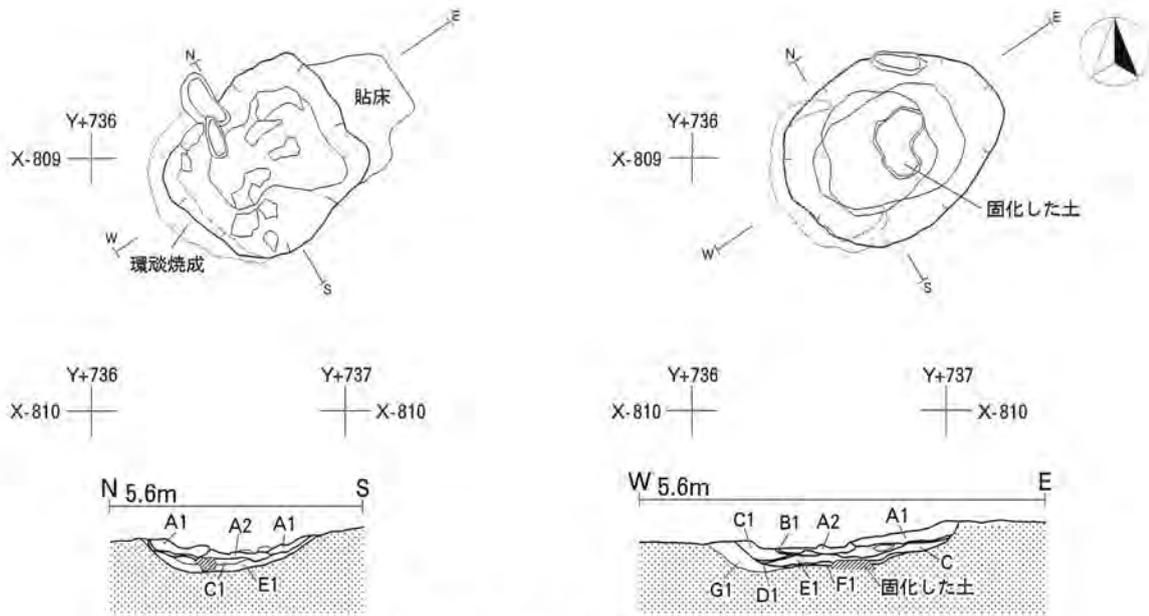
調査区南西部に位置する。検出面は 4 a 層である。平面形は不整楕円形である。A1 層には遺物が含まれているが、遺構は検出していない。二次的な堆積である

出土遺物（第 30 図 34、35）

34、35 は鉄製品である。34 は角釘である。35 は断面形が半円をなす棒状の製品である。

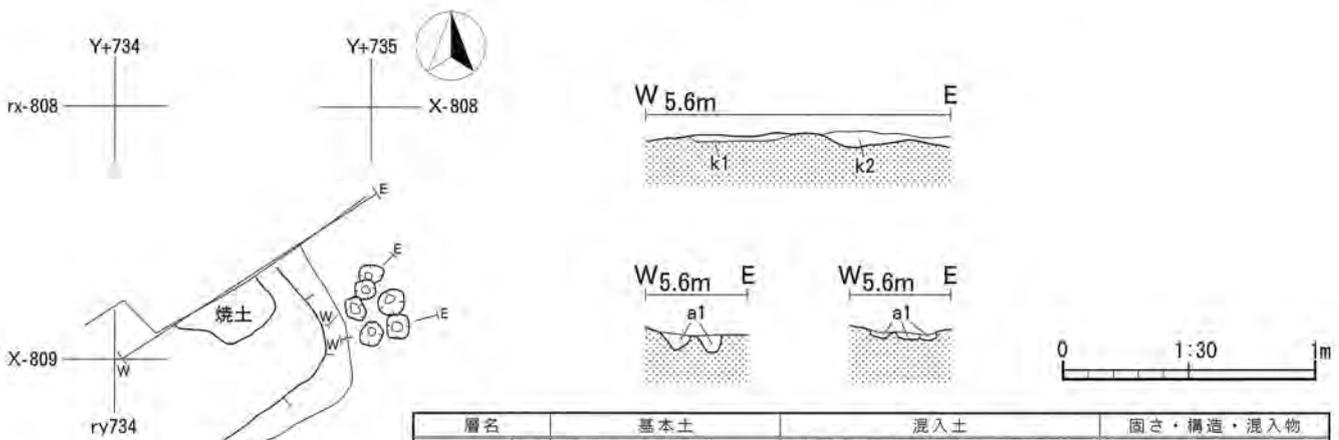


第 21 図 II 期遺構群の配置図



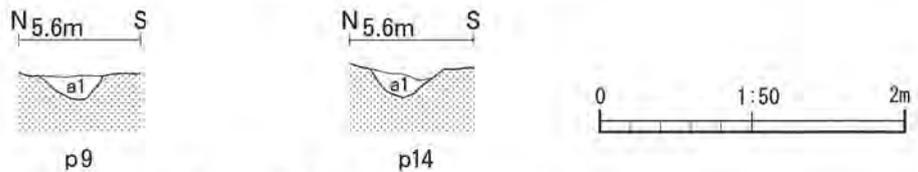
第22図 1号炉跡平・断面図

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
炉3	A1 10YR5/6 黄褐色重埴土	10YR3/3 暗褐色シルト埴土 5%	固、密、塊
	A2 5YR4/4 にぶい赤褐色重埴土	5YR3/4 暗赤褐色重埴土 10%	固、密、塊
	B1 10YR2/1 黒シルト質埴土		中～軟、密・炭層
	C1 5YR6/2 灰褐色シルト質埴土	5YR4/2 シルト質埴土 101%	中～軟、密・炭層
	D1 10YR2/1 黒シルト質埴土		中～軟、密・炭層
	E1 5YR6/2 灰褐色シルト質埴土	5YR4/2 シルト質埴土 101%	中～軟、密・炭層
	F1 10YR2/1 黒シルト質埴土		中～軟、密・炭層
G1 5YR3/4 暗赤褐色砂埴土	7.5YR3/4 暗褐色砂埴土 10%	中～固、中・塊・還元炭焼成	



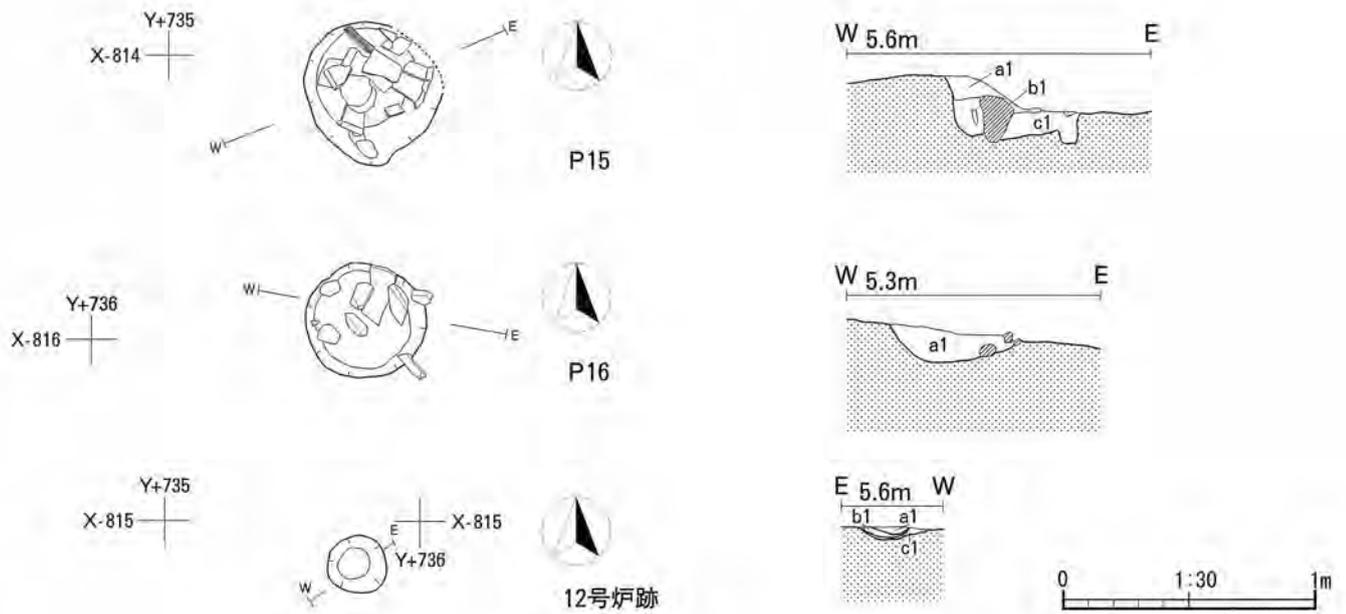
第23図 1号焼土遺構

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
1号焼土	k1 7.5YR4/3 褐砂埴土	5YR4/3 にぶい赤褐色砂埴土 10%	固、中・塊
	k2 7.5YR4/3 褐色シルト質埴土	7.5YR5/2 灰褐色シルト質埴土 10%	中～軟、密・塊・焼土塊少
小ピット群	a1 10YR3/2 黒褐色シルト質埴土	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質埴土 5%	中～固、密・塊・焼土、炭少



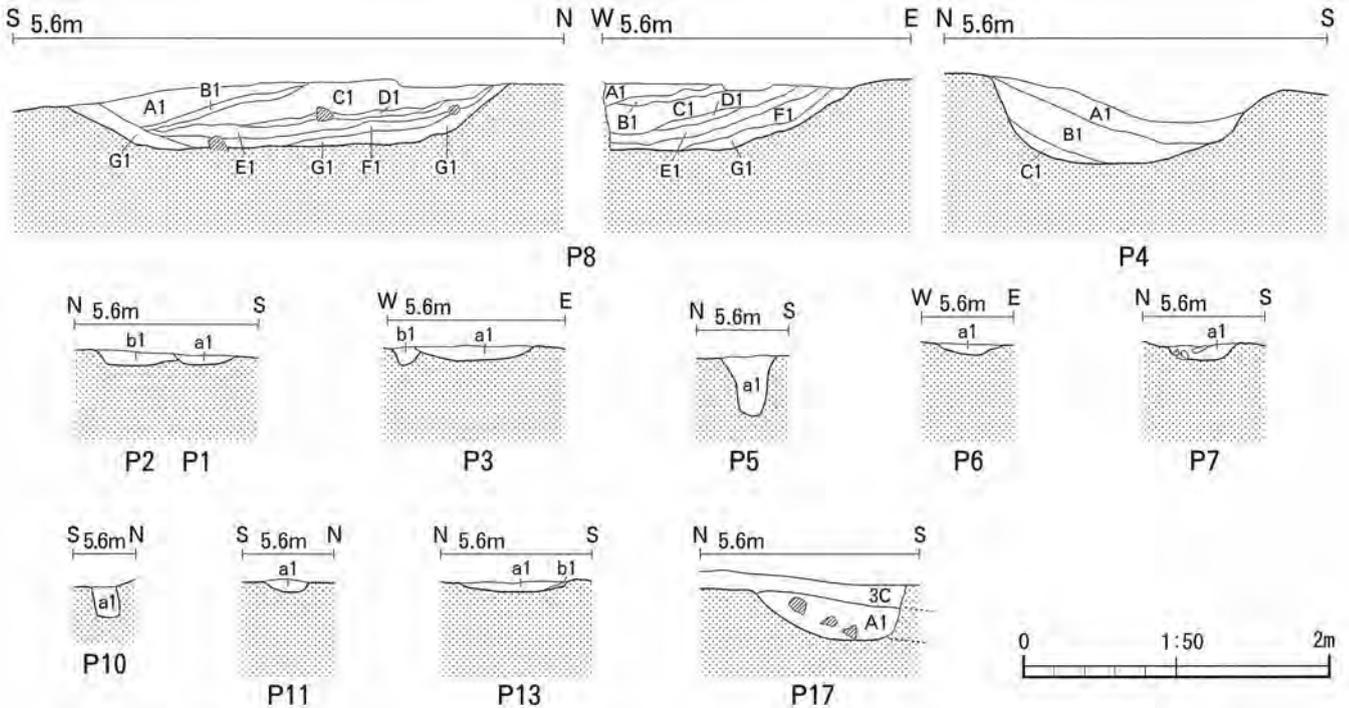
第24図 9号、14号土坑跡断面図

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
P9 a1	10YR2/3 黒褐色シルト質埴土	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質埴土 10%	中、中～密、塊・
P14 a1	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質埴土	2.5YR4/2 灰赤褐色土 10%	中～軟、中～疎・塊・粘土多

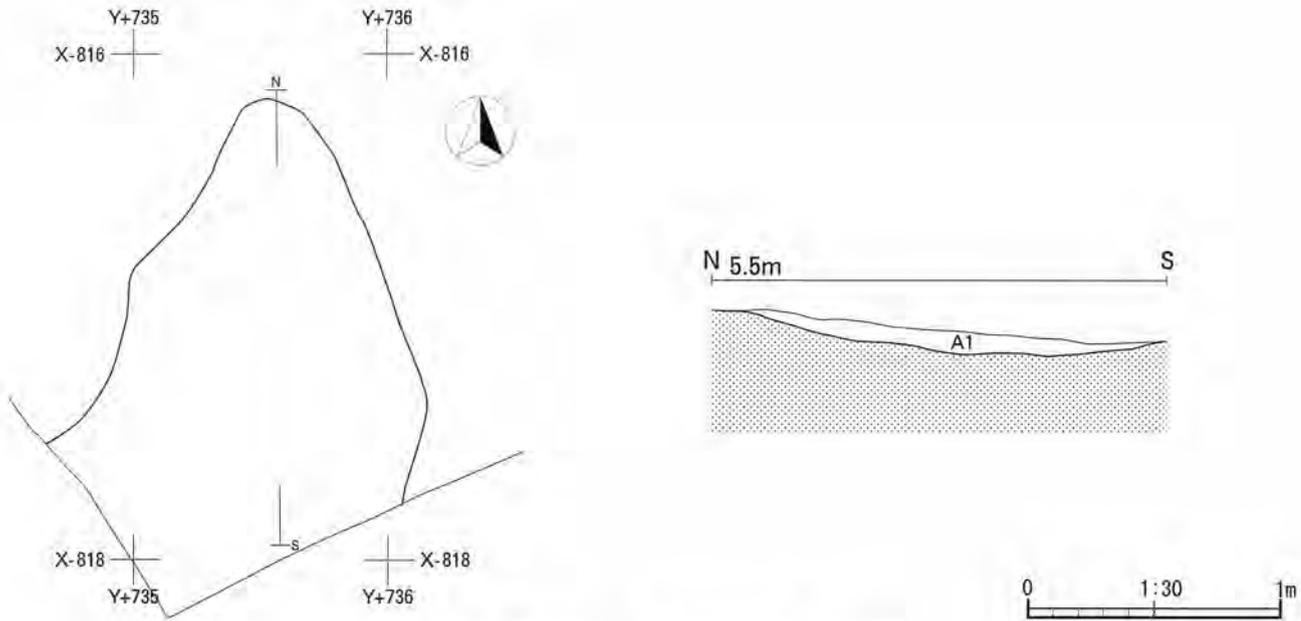


第25図 15号、16号土坑跡、12号炉跡平・断面図

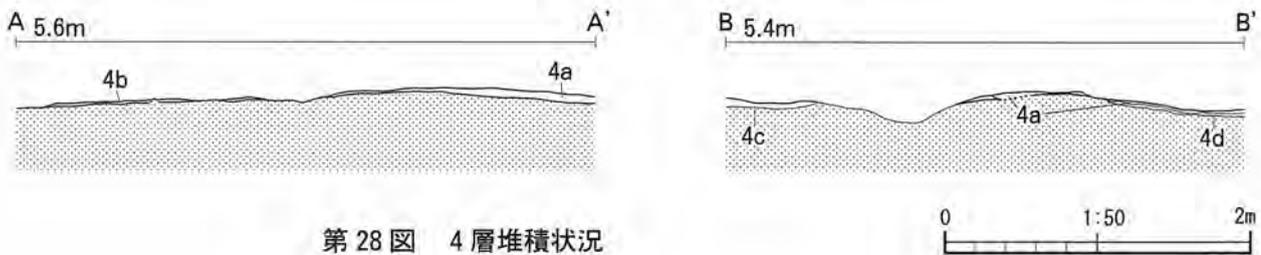
層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
P15	a1 10YR4/3 にふい黄褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐シルト壤土 塊 10% 10YR4/2 灰黄褐砂壤土 3%	中～軟、中～疎・塊・炭、粘土、焼土
	b1 10YR5/6 黄褐シルト質壤土	7.5YR4/4 シルト質壤土 3%	中～固、中～密、塊・礫
	C1 10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR3/4 暗褐砂壤土 塊 10% 10YR4/2 黄褐砂壤土 3%	軟、疎・塊・炭多
P16	k1 10YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/2 灰黄褐砂壤土 3%	中、中、塊・鉄製品
12号炉跡	a1 10YR4/3 にふい黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐 砂壤土 2%	中、軟・塊
	b2 10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂壤土	中、中～密、塊・炭多
	c3 7.5YR3/4 暗褐砂壤土	10YR4/4 褐 砂壤土塊 2%	軟、疎・塊・底面がかすかに焼けている



第26図 II期土坑跡断面図



第 27 図 焼土、炭の広がり平・断面図



第 28 図 4 層堆積状況

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
南 焼土炭 3	A1 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 5%	中、中、塊・焼土塊少。炭塊少 二次堆積

層名	基本土	混入土	固さ・構造・混入物
P 4	A1 10YR4/2 灰黄褐シルト質壤土	10YR5/2 灰褐砂壤土 10%	固、密、塊・陶器
	B1 10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 10%	固、中・塊
	C1 10YR2/3 黒褐砂壤土	10YR2/1 黒シルト質壤土層状 10%	固、中・塊 下部に黒色層→II期検出面
P 8	A1 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 10%	中～固、中・塊
	B1 10YR5/6 黄褐砂礫土	10YR3/4 暗褐色砂壤土 塊 3%	中～軟、中～疎・塊
	C1 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 10%	中～軟、中～疎・塊・墨書土器
	D1 10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色シルト壤土 塊 3%	中～軟、疎・塊
	E1 10YR2/2 黒褐砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 2%	中～軟、中～疎・塊
	F1 10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10YR.6/4 にぶい黄橙砂壤土塊 10%	軟、疎・塊
	G1 10YR2/3 黒褐シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト壤土 塊 3%	中～軟、中～疎・塊
P 2	b1 10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 2%	中～軟、疎・塊・陶磁器
P 3	a1 10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR.6/4 にぶい黄橙砂壤土 3%	中～軟、中～疎・塊
	b1 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質	10YR.6/4 にぶい黄橙砂壤土 3%	中～軟、中～疎・塊
P 5	a1 10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR5/3 にぶい黄褐砂壤土塊 10%	中～固、中～密、塊・
P 6	a1 10YR4/2 灰黄褐砂壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 塊 2%	中～固、中・塊
P 7	a1 10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR5/3 にぶい黄褐砂壤土塊 3%	中、中、塊・陶器、釘
P 10	a1 10YR4/2 灰黄褐シルト質壤土	10YR2/3 黒褐シルト質壤土 10%	中～軟、中・塊
P 11	a1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐砂壤土	中～軟、中・塊
P 13	a1 10YR5/6 黄褐砂壤土	10YR4/2 灰黄褐砂壤土 2%	中、中～疎・塊・鉄製品
	b1 10YR4/2 灰黄褐砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 3%	中、中～疎
P 17	A1 10YR3/3 暗褐色砂土	10YR4/4 褐色砂土 10%	中程度、疎、塊

6 II期貼床、焼土粘土堆積状況(第28図)

4a層が固く、締まった貼床層である。4b層は西側に広がる粘土、焼土混じる黒色土層である。陶磁器、鉄製品などの遺物を含む。4c、4d層はいずれも固く締まった盛土層である。

遺構外出土遺物(第32図から第34図)

4a、4b層以外から出土したものをまとめた。

1～5は陶磁器である。

1はやや内湾気味に立ち上がる碗である。外面に窓絵、格子文を施す。国産磁器で、19世紀代に伴う。2は皿である。内面に草花文、高台内に二重線を巡らす。産地、年代は不明である。

4は紅皿である。5は播鉢である。

6～26は鉄製品である。

6～8は鉄銭である。9～22は角釘である。22は今回出土した釘のなかで最も細く、長い釘である(写真図版9)。用途が注目される。23、24は刃物の刃部である。25、26は湾曲する板状の製品である。

27は銅製品の簪である。4層最下部から出土したものである。

28は土製品の紡錘車である。

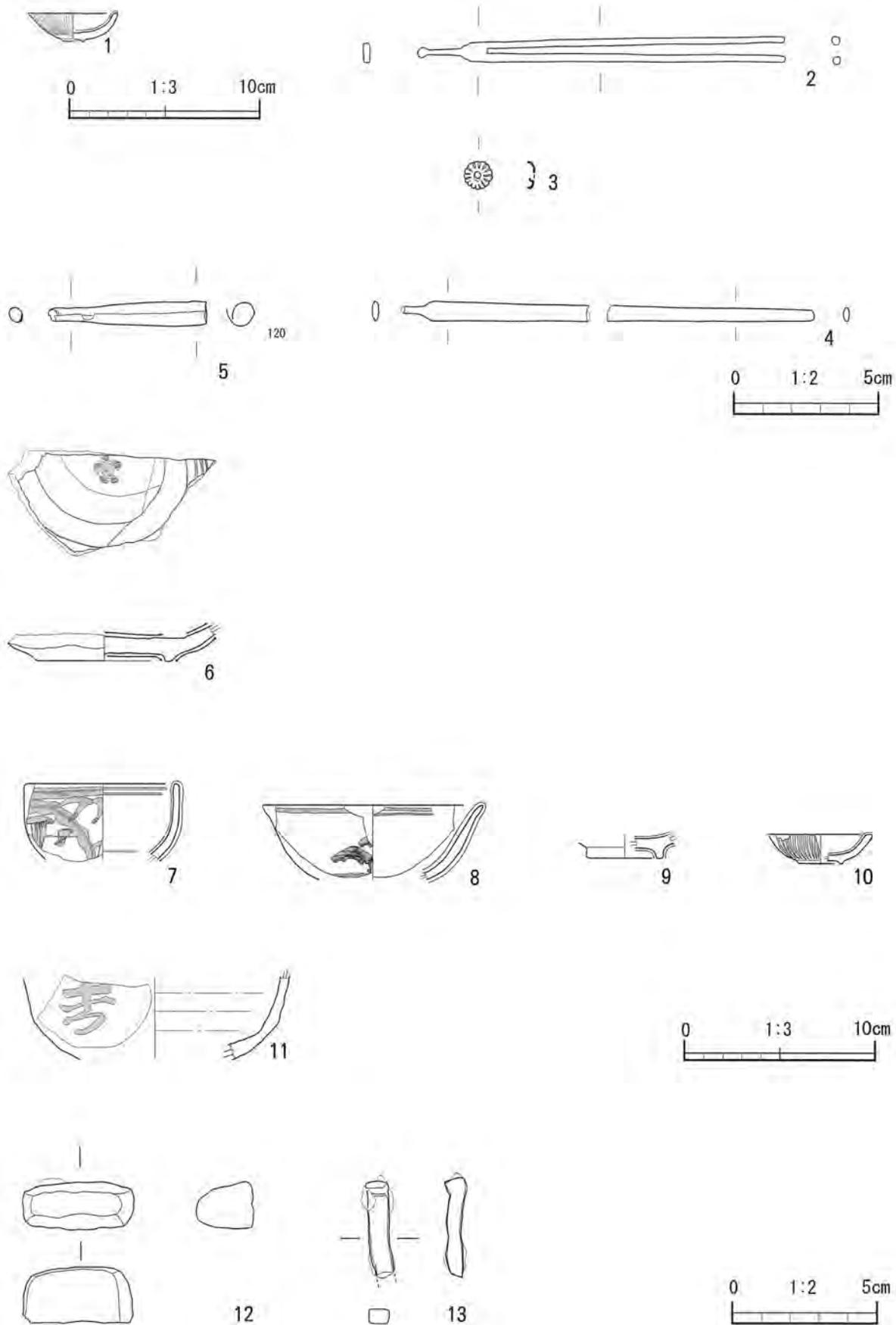
29、30は石製品である。いずれも砥石である。

31、32は鉄滓である。いずれも椀型滓である。

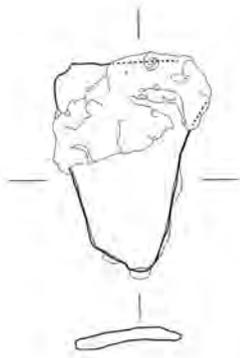
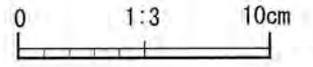
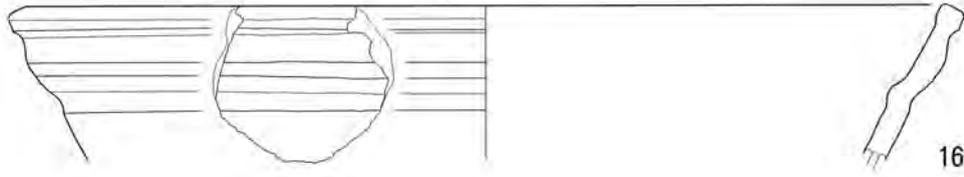
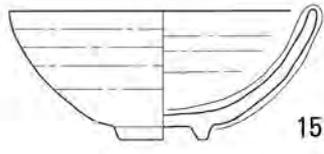
7 III期の遺構(第35、36図)

北東部の隅に位置する。検出面は4c層下面である。礫の傍らに位置する焼土遺構とその南側の2基の小ピットで構成される。

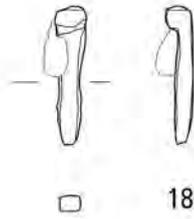
焼土の平面形は円形で、規模は約30cmである。焼土層厚は厚くはなく、焼き締まっていない。傍らの石とセットで使用されたものと推測する。遺物は出土していない。



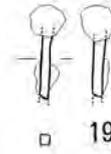
第 29 图 II 期遺構出土遺物(1)



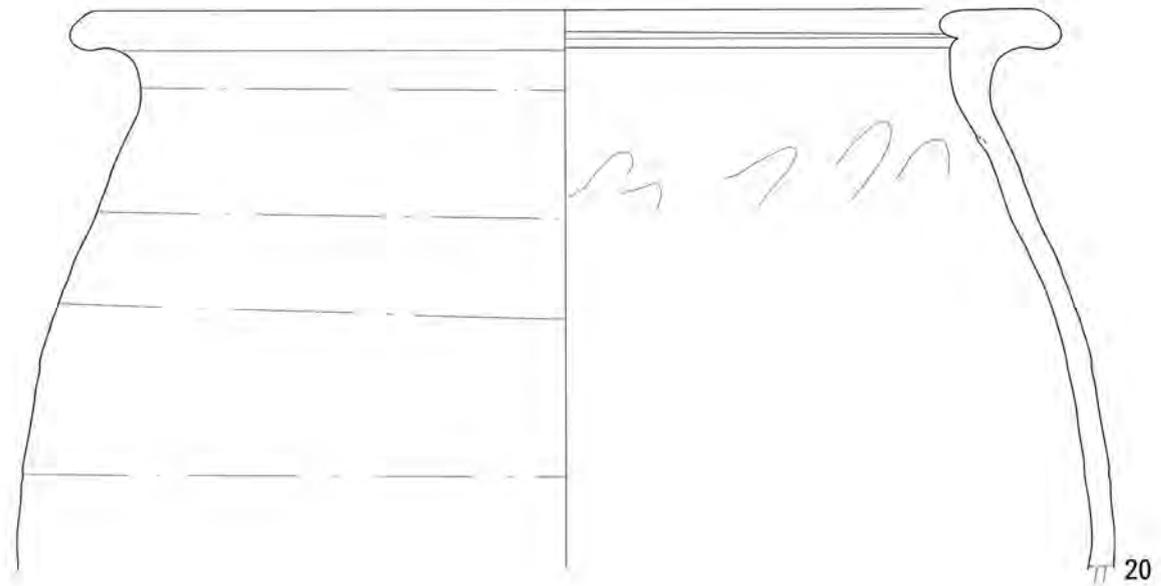
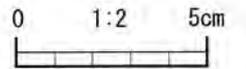
17



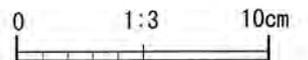
18



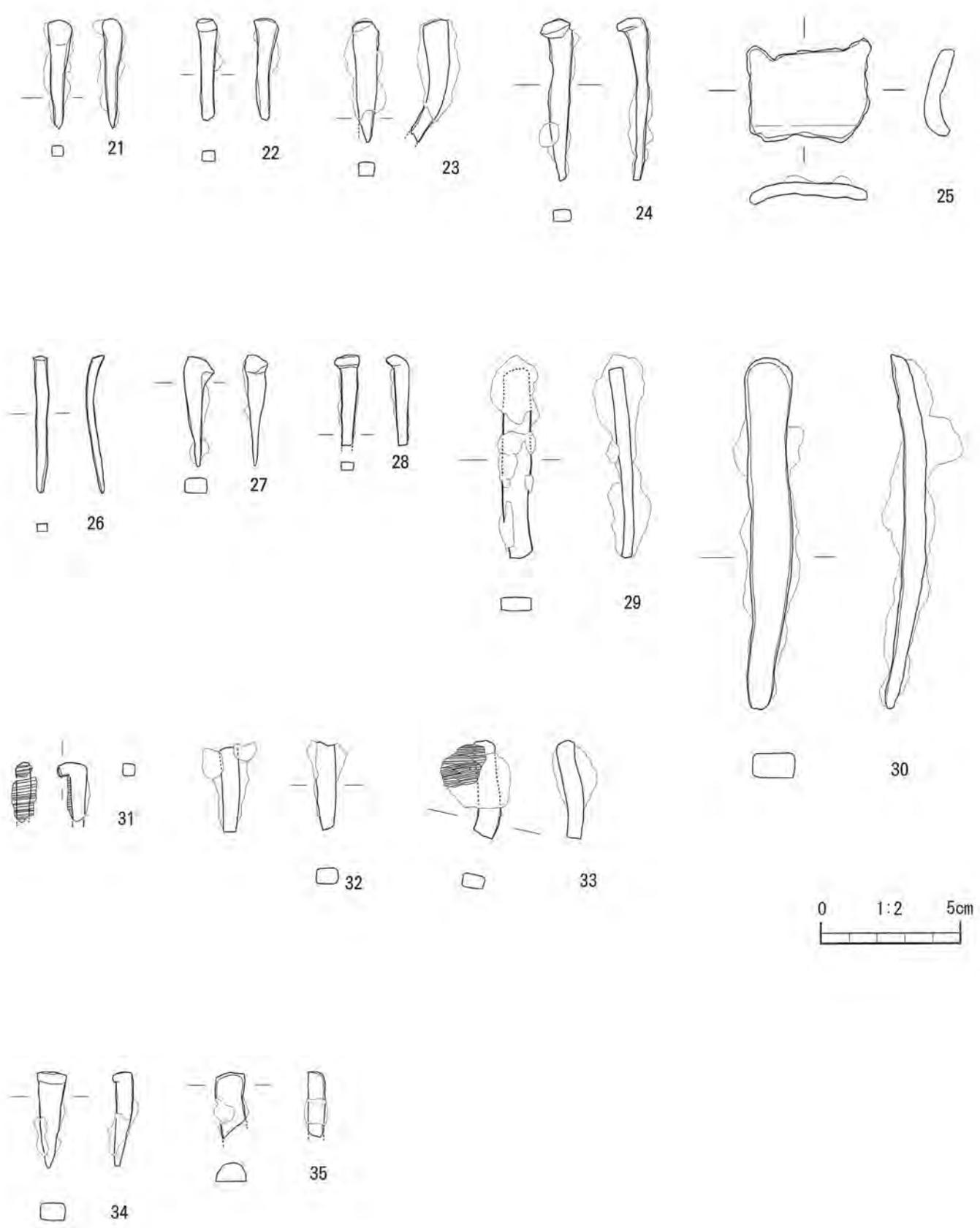
19



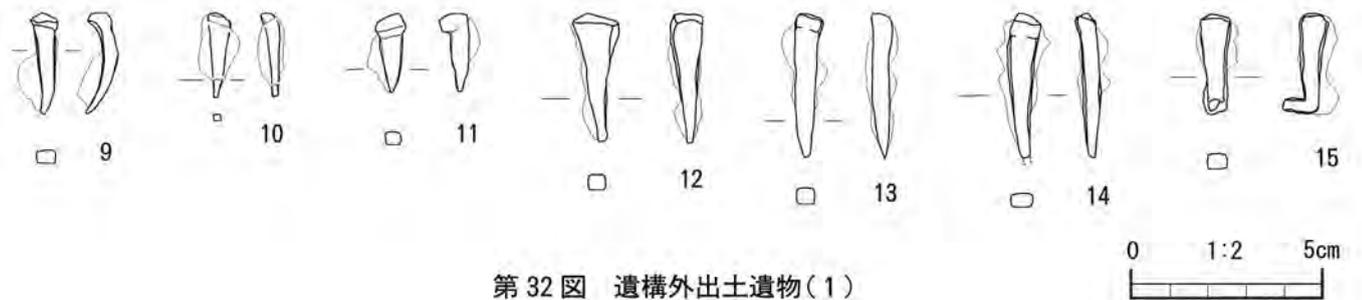
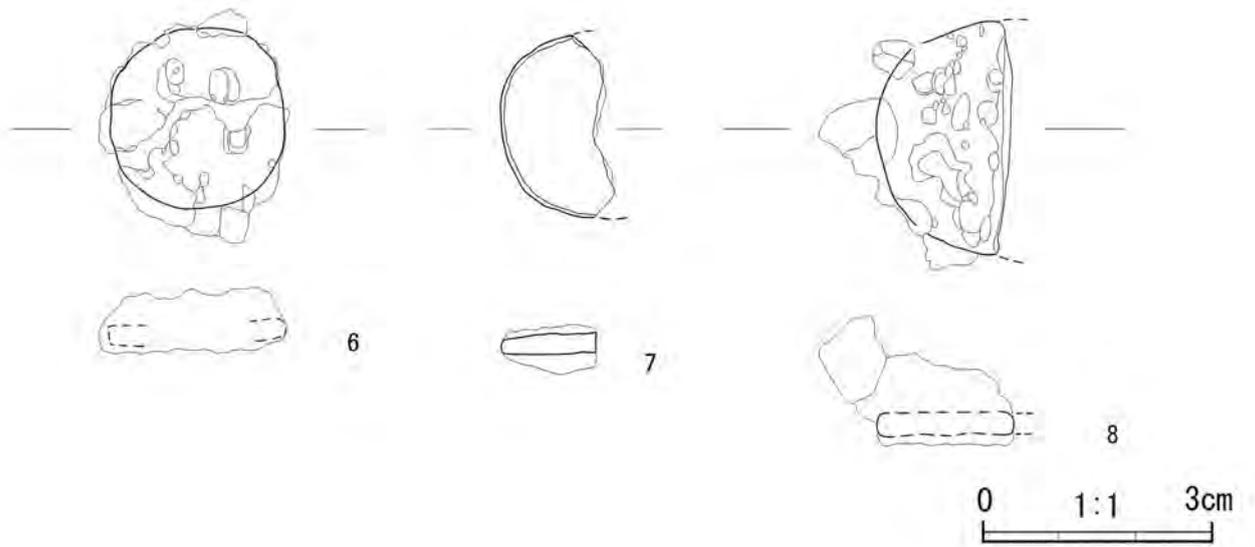
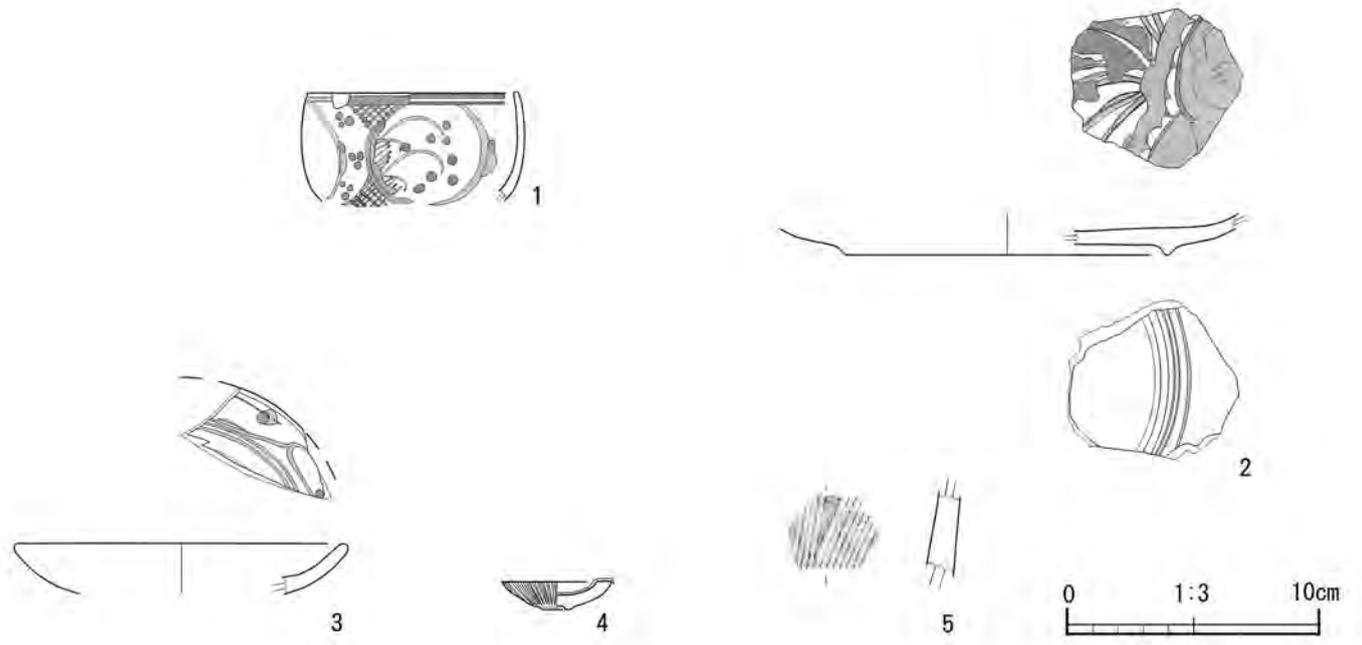
20



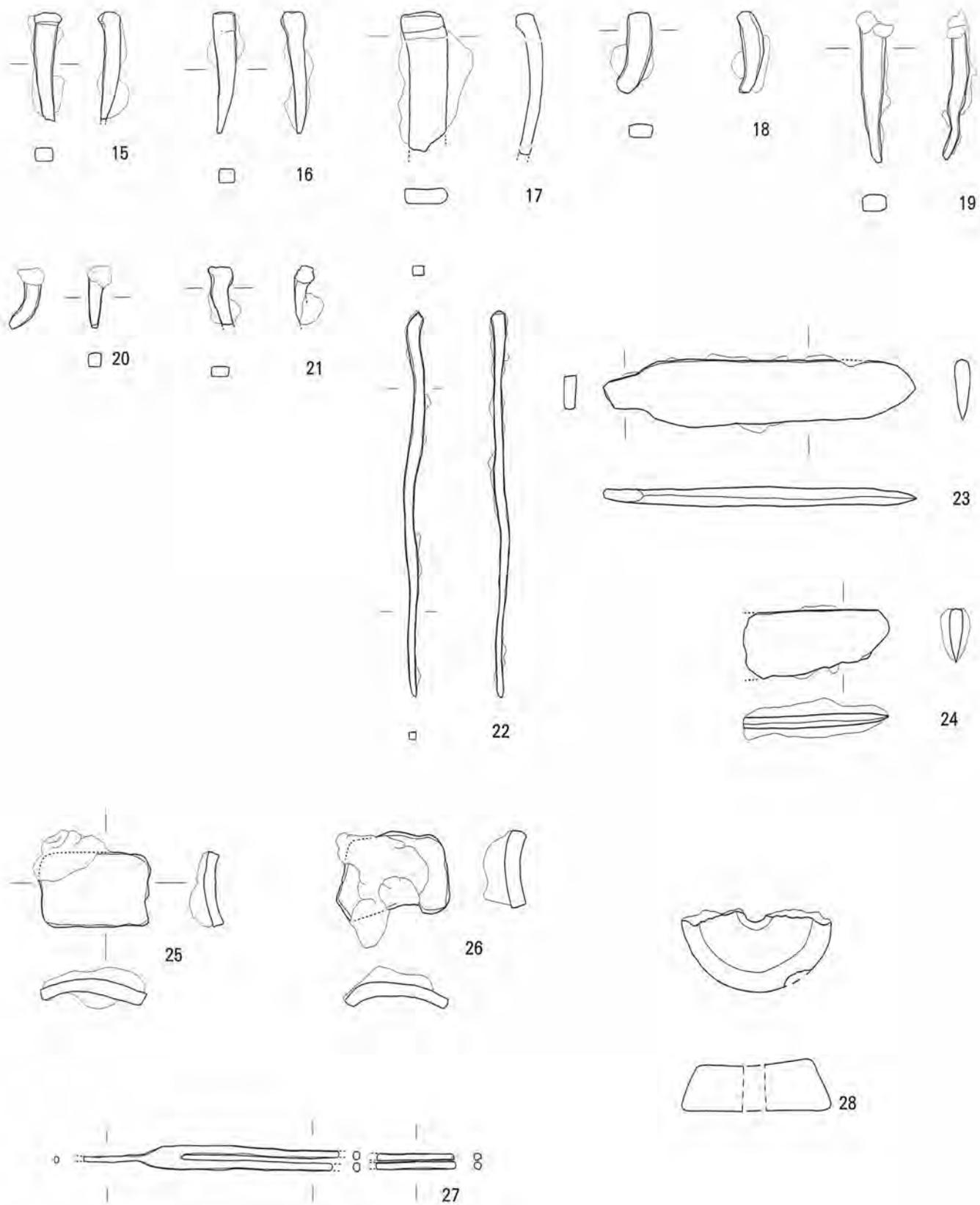
第 30 図 II 期遺構出土遺物(2)



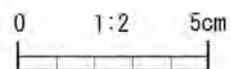
第 31 图 II 期遺構出土遺物(3)

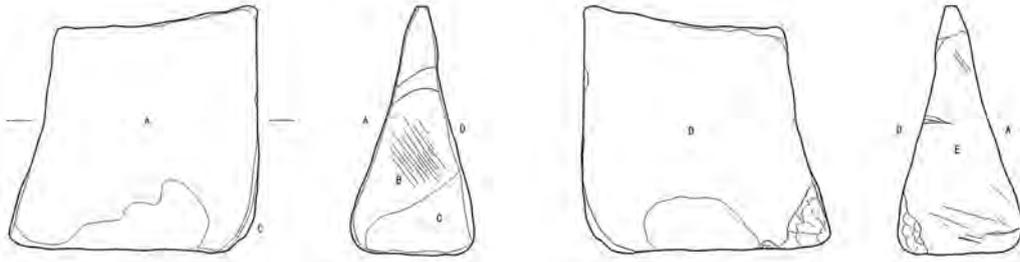


第 32 図 遺構外出土遺物(1)

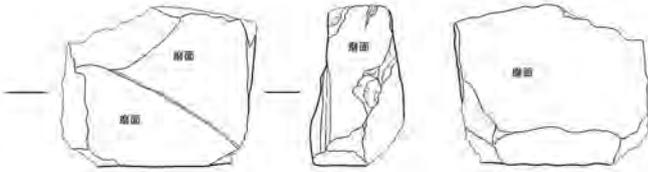
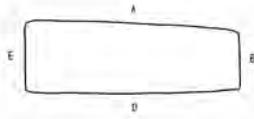


第33図 遺構外出土遺物(2)

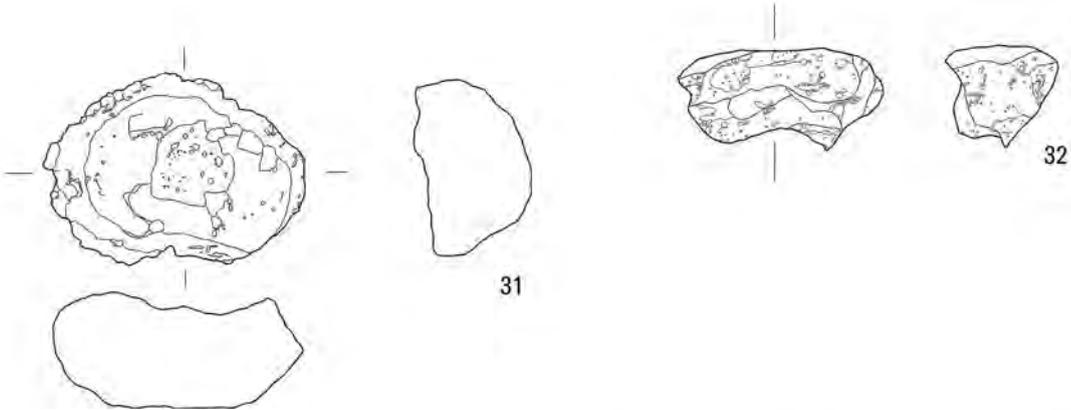
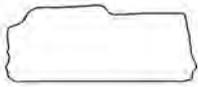




29



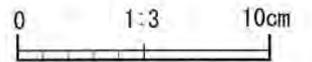
30



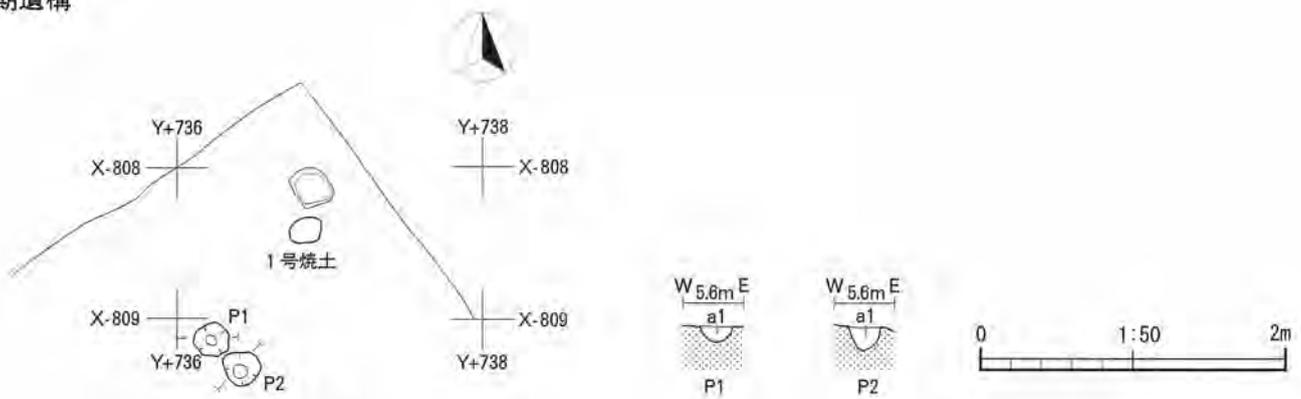
31

32

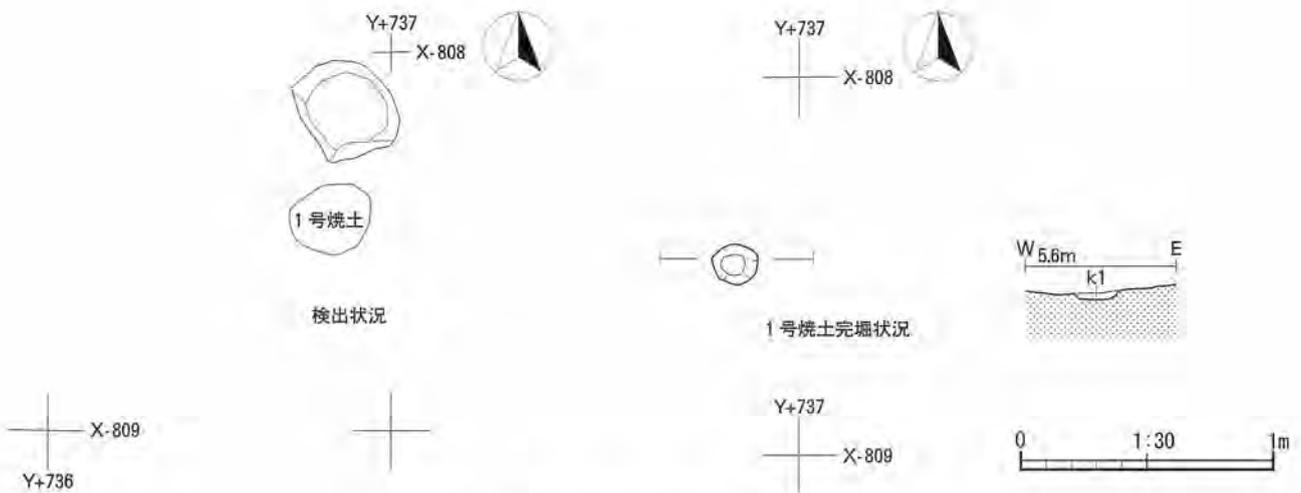
第 34 図 遺構外出土遺物(3)



III期遺構



第35図 III期遺構群の配置、土坑跡平・断面図



第36図 III期1号焼土遺構、平・断面図

層名		基本土	混入土	固さ・構造・混入物
1号焼土	k1	5 YR4/3 にふい赤褐砂壤土	7.5YR3/3 暗褐砂壤土5%	中、中・塊
P1	a1	10YR4/2 灰黄褐シルト質壤土	10YR2/2 黒褐砂壤土10%	軟、疎・塊
P2	a1	10YR4/2 灰黄褐シルト質壤土	10YR4/4 褐 砂壤土塊5%	軟、疎・塊

3 調査のまとめ

I期遺構群、II期、III期遺構群の年代は陶磁器、銭貨などの遺物から江戸時代末期に伴うものと思われる。

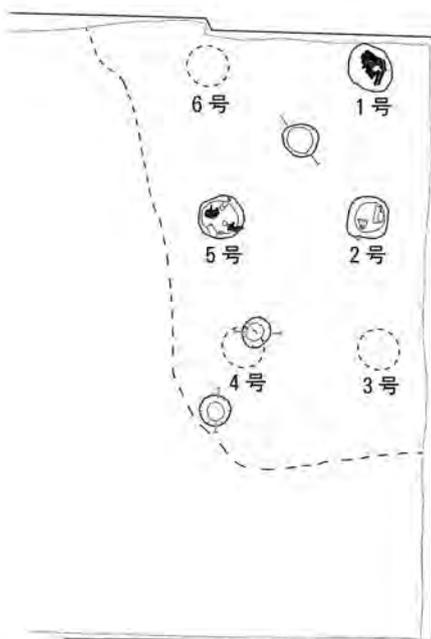
I期遺構群について

I期遺構群は、焼土、炭、粘土などが方形に広がり、多量の釘の出土が目立つこと、そしてその下に灰褐色のシルト質の土が一樣に広がっていることなどが特徴として挙げられる。何かが焼けた跡であることは明らかであるが、多量の大小の釘から推して、建物、建具などが焼けた残りであり、その下のシルト層は建物などが文字通り「灰燼に帰した」跡と考えられる。

炉跡として報告した6基の浅い土坑群がある(図8)。当初、床面の炭、炭化物の出土状況から炉跡と判断したからである。その後土坑の配置が方形をなし、土坑間の距離がほぼ2メートルを測ることが分った。これまで近世の建物跡は例外なく掘立柱式のものであった(「トロノキI」、「下在家I」、「根井沢I」、「木戸井内IV」など)。しかし盛合家(宮古市津軽石 18世紀〜)のような礎石の基に建てられた建物が残されており、そういう建物を想定したほうが、炉を並べて火を焚いたと考えるよりは自然と思われる。

II期遺構群について

炉跡と貼床、簀、筭、紅皿などの周辺の遺物から建物跡が想定される。貼床は、平面的に炉跡の周辺部でしか確認できなかったが、東壁の断面でみると、土坑跡P4の辺りまで広がっていたことが分かる。I期で想定した敷地とはほぼ重なる。建物は、I期の想定と同じく礎石を使用したものが考えられる。炉跡の南側に並ぶP9、P14の距離は2メートルを測り、礎石を据えた跡と考えられる。



挿図1 I期炉跡の配置

I期、II期を通じてもう一つ注目すべきことは、遺構が盛土の上に築かれていることと思われる。近世の道普請などの土木工事は知られているが、埋立てを行い敷地とした初出例かと思われる。同様な例が同じく平成25年に行った「黒森町I遺跡」の調査でも確認されている。近世の調査の際に注目すべき一面である。



写真1 盛合家(宮古市津軽石)

周辺の試掘調査について（第3図）

平成25年、平成26年に今回の調査区の南側と北側（A地点）で試掘調査がお行われている。

平成25年12月に今回と同じ敷地内で行われた調査では、今回の調査で5層とした湿地面に並べられた石積みが出土し、およその埋立ての範囲がつかめるようになった（挿図2）。

平成26年の北側の調査区（A地点）は山寄りであり、今回の調査区との標高差は約4メートルである。ここでもやはり今回5層とした湿地を検出している。しかし今回のような盛土層は検出していない。湿地の上には厚い砂質層が重なり、その上面から竪穴状の遺構、「開元通宝」、「永楽銭」、青磁釉の陶器片、茶臼などが出土している。中世の遺構が残っている可能性が大きい。

また東側の洞地（B地点）では浄化槽設置工事に伴い壺掘りの小規模な調査が2件行われている。いずれも現、近代の盛土で埋立てられており、盛土層を掘り切れないうちに水が湧き出す状況である。

結論として中世の「千徳城」は、東から閉伊川に面する南側にかけて湿地の囲まれた要害の地で、近世になって人々が住み始めたと推測される。



挿図2

<参考文献>

- 宮古市教委 1989「トロノ木Ⅰ遺跡」
- 〃 1992「黒森町Ⅰ遺跡」
- 〃 2003「下在家Ⅰ遺跡」
- 〃 2003「上根井沢Ⅰ遺跡」
- 〃 2006「木戸井内Ⅳ遺跡」

写真図版

写真図版 1

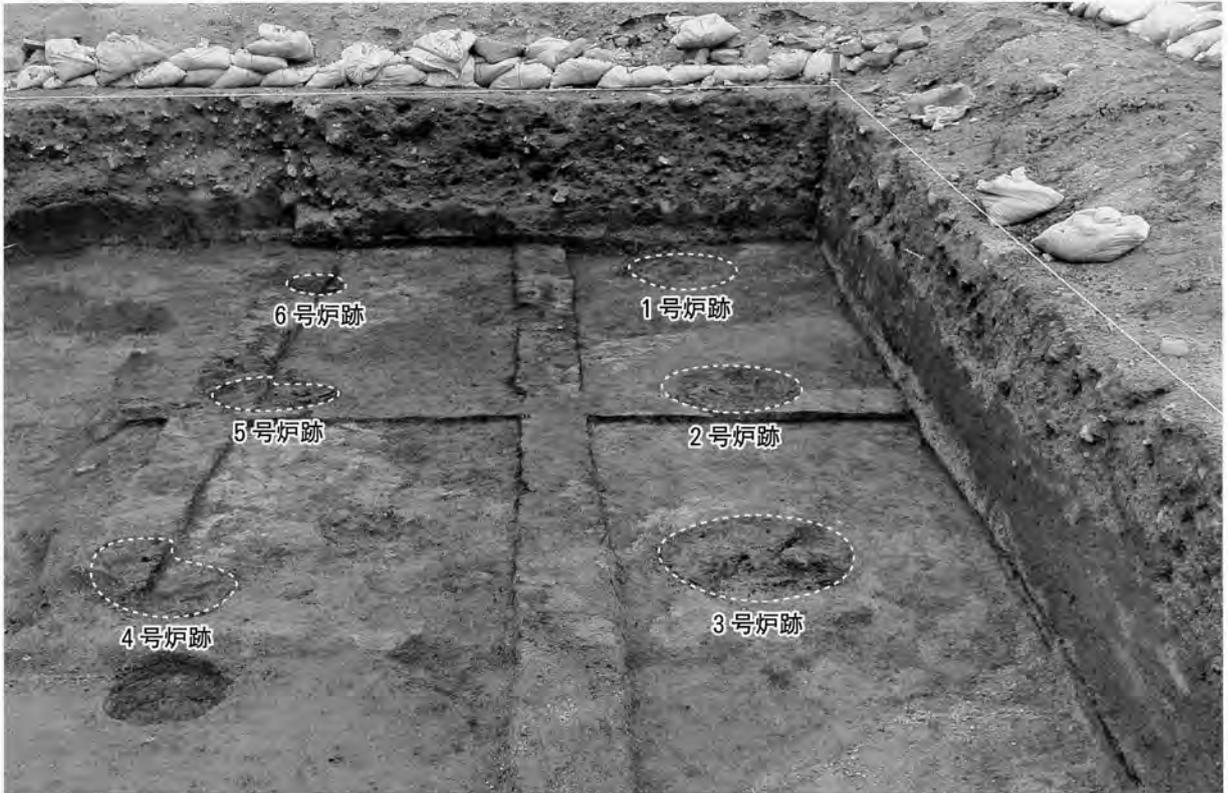


1 近代の遺構 盛土と石組み

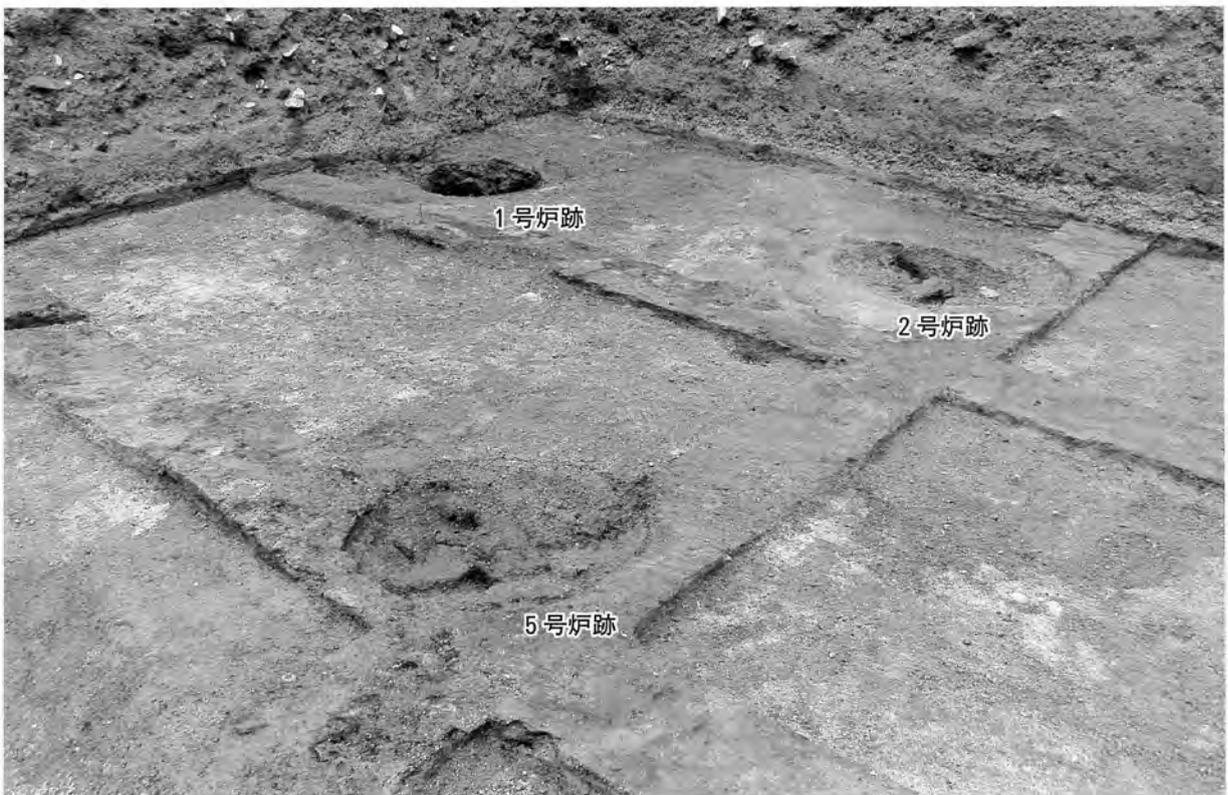


2 Ⅰ期炭、焼土の広がり

写真図版 2



3 I期 炉跡の配置

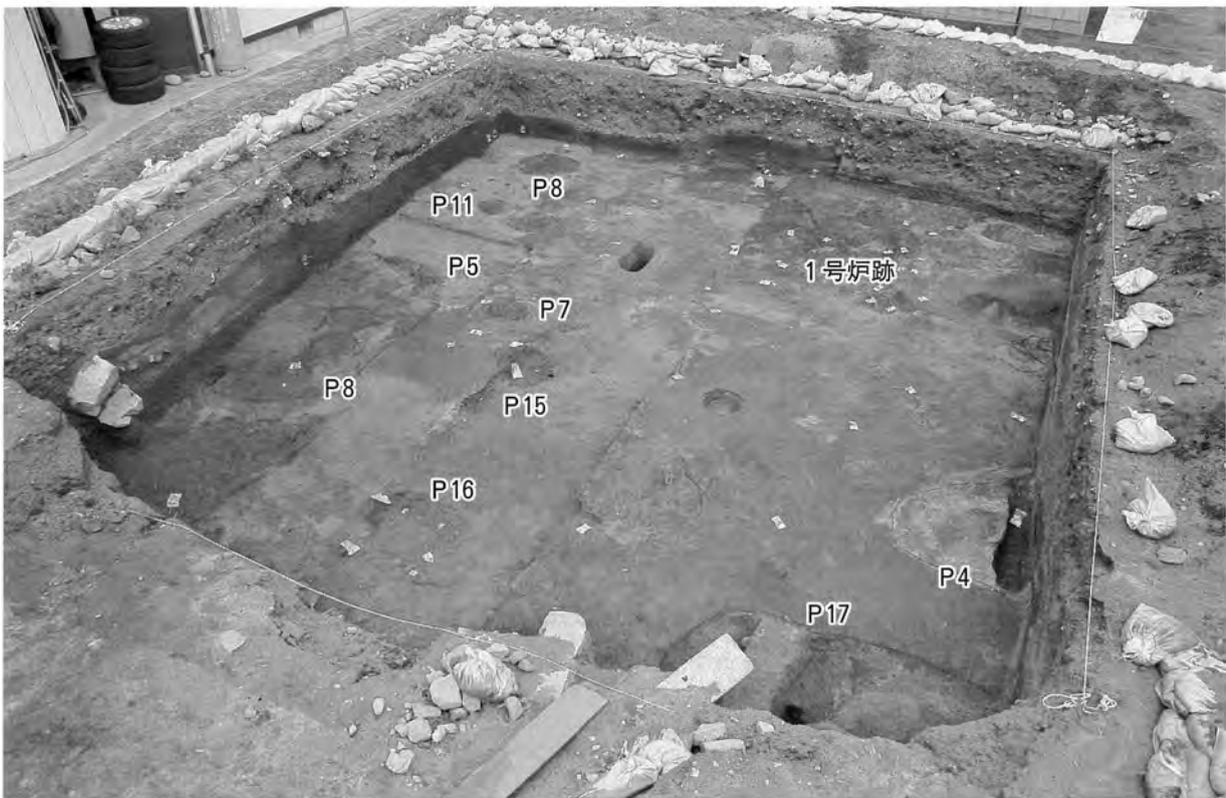


4 I期炉跡の検出状況

写真図版 3



5 3層堆積状況

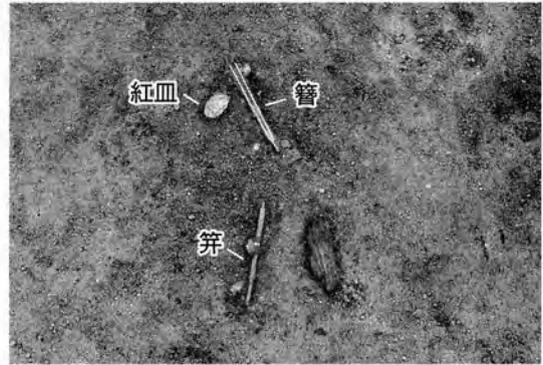


6 II期遺構検出状況

写真図版 4



7 II期 15号土坑跡検出状況



8 II期 簪、筭、紅皿出土状況



9 II期 4号土坑完掘状況



10 8号土坑跡完掘状況



11 II期 1号炉跡検出状況



12 同左 構築状況

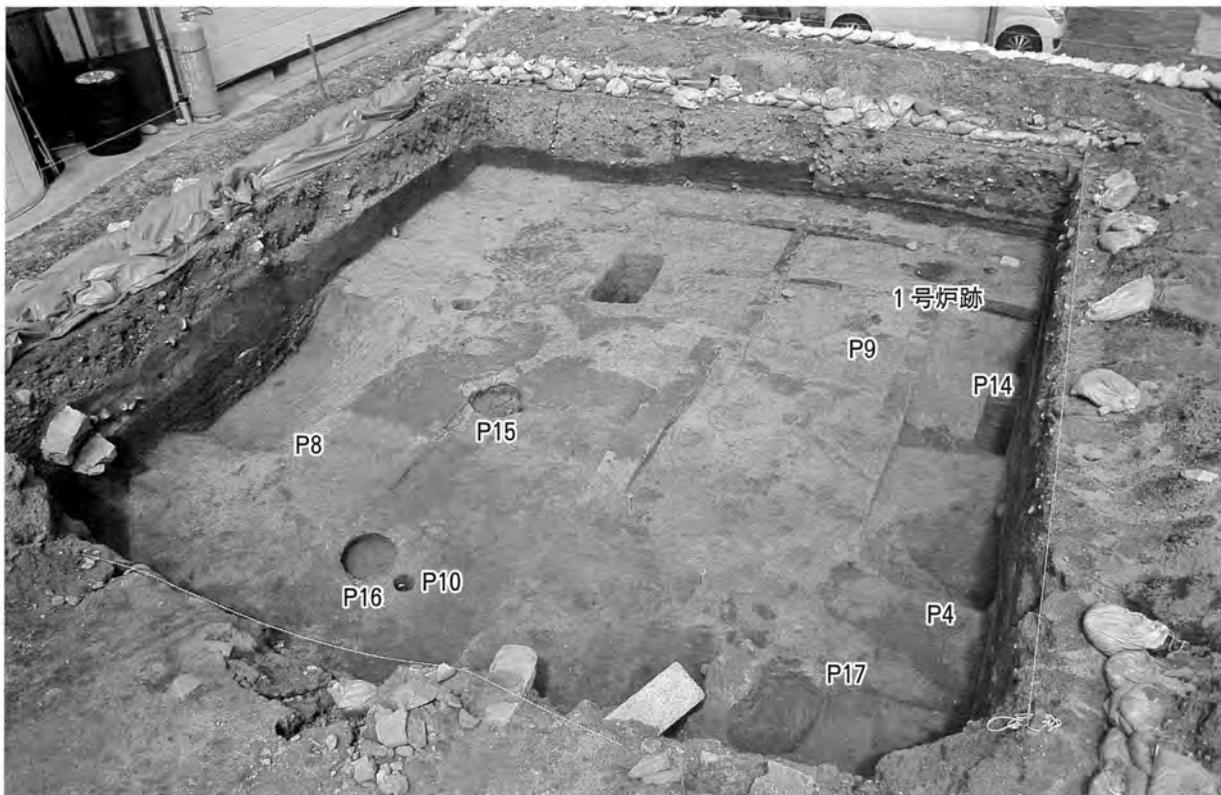


13 12号炉跡断面



14 III期 焼土遺構検出状況

写真図版 5



15 II期完掘状況



16 調査区西壁面

写真図版 6



17 調査区北壁面



18 調査区東壁面

写真图版 7 陶磁器



11-1



11-4



11-6



11-7



19-1



19-4



19-9



19-10



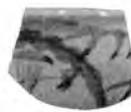
19-11



29-1



29-6



29-7



29-11



30-20



32-1

写真図版 8 錢貨



7-1



7-2



10-8



19-15



19-16



20-17



20+18



11-9



11-10



12-12



12-13



12-15



12-16



12-17



12-18



12-20



12-21

写真図版9 銭貨と釘



12-22



12-23



13-24



13-25



14-36



14-37



14-38



14-39



14-40



14-41



14-42



14-43



14-44



14-45



14-46



14-47



14-48



14-49



14-53



14-59



14-67



14-68



14-73



15-84



16-113



16-115



31-26



33-22

写真図版 10 銅製品と土製品



29-2



29-4



29-3



33-27



20-19



33-28

報告書抄録

ふりがな	せんとくじょういせきぐん						
書名	千徳城遺跡群						
副書名	一条工務店モデルハウス建築工事関係発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	83						
編著者名	阿部 豊						
編集機関	岩手県宮古市教育委員会						
所在地	〒028-2101 岩手県宮古市茂市第2地割112番地1 TEL.0193-72-2176						
発行年月日	2015/2/28						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経 (世界測地系)	調査期間	調査面積 (㎡)
		市町村	遺跡番号				
せんとくじょう 千徳城 いせきぐん 遺跡群	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 せんとくじょう 千徳町2番	03202	LG33-0197	39°38'11"	141°55'31"	試掘調査 20121107～20121108 本調査 20130624～20130809	32㎡ 72㎡
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			
千徳城 遺跡群	建物跡 埋立跡	江戸時代後期	建物跡 遺物包含層	陶磁器、銭貨、鉄製品、銅製品、土製品			

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覽

- 1 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』
- 2 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』
- 3 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書1』
- 4 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書2』
- 5 1984 『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』
- 6 1985 『宮古市遺跡分布調査報告書3』
- 7 1985 『金浜館跡発掘調査報告書』
- 8 1986 『宮古市遺跡分布調査報告書4』
- 9 1986 『宮古市遺跡分布図-昭和60年度版-』
- 10 1986 『中谷地・島田遺跡調査報告書』
- 11 1987 『崎山貝塚・トロノ木IV遺跡調査報告書』
- 12 1987 『寒風・早稲橋IV遺跡調査報告書』
- 13 1987 『崎山遺跡群I-昭和60年度発掘調査概報-』
- 14 1988 『青猿I・下在家II・千徳城遺跡群(堀合館)-昭和62年度発掘調査報告書-』
- 15 1988 『崎山遺跡群II-昭和62年度発掘調査概報-』
- 16 1989 『千鶴遺跡-昭和62年度発掘調査報告書-』
- 17 1989 『トロノ木I遺跡-第1~7次発掘調査報告書-』
- 18 1989 『崎山遺跡群III-昭和63年度発掘調査概報-』
- 19 1989 『高根遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 20 1989 『狐崎VI遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 21 1989 『崎山トロノ木IV遺跡-昭和63年度調査報告書-』
- 22 1990 『狐崎遺跡-平成元年度発掘調査報告書-』
- 23 1990 『崎山遺跡群IV-平成元年度発掘調査概報-』
- 24 1990 『磯鷗館山遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 25 1990 『鎌ヶ崎館山貝塚-平成元年度発掘調査報告書-』
- 26 1991 『崎山遺跡群V-平成2年度発掘調査概報-』
- 27 1991 『青猿I・千徳城遺跡群-平成元年・2年度発掘調査報告書-』
- 28 1990 『熊野町遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』
- 29 1991 『弘川I遺跡-平成2年度発掘調査報告書-』
- 30 1992 『金浜I遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書』
- 31 1992 『重茂館遺跡群-第1次調査報告書-』
- 32 1992 『黒森町I遺跡-平成2年度発掘調査報告書-』
- 33 1992 『高根遺跡-平成3年度発掘調査報告書-』
- 34 1992 『鯉沢遺跡群-平成2年度発掘調査報告書-』
- 35 1992 『大付遺跡-平成3年度発掘調査報告書-』
- 36 1992 『細越I遺跡・芋野VI遺跡-農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 37 1992 『崎山遺跡群VI-平成3年度発掘調査概報-』
- 38 1993 『萩沢VI遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』
- 39 1993 『早稲橋VI遺跡-第1次・第2次発掘調査報告書-』
- 40 1993 『崎山遺跡群VII-平成4年度発掘調査概報-』
- 41 1994 『崎山遺跡群VIII-平成5年度発掘調査概報-』
- 42 1995 『赤前I牛子沢遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』
- 43 1995 『磯鷗館山遺跡発掘調査報告書』
- 44 1995 『崎山貝塚-範囲確認調査報告書-』
- 45 1995 『笹沢I・加村・仲組III・堺ノ神遺跡-市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 46 1995 『花原市遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』
- 47 1995 『宮古市内遺跡発掘調査概報I 早稲橋VI遺跡・崎山貝塚』
- 48 1996 『大付遺跡-平成5年・6年度発掘調査報告書-』
- 49 1997 『花原市遺跡-平成8年度発掘調査報告書-』
- 50 1997 『白石遺跡-第6次発掘調査報告書-』
- 51 1998 『赤畑・天神山・山口館-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
- 52 1998 『藤畑遺跡-平成9年度発掘調査報告書-』
- 53 1999 『赤前III・赤前IV八枚田・赤前V柳沢・赤前VI金屋ヶ沢・小堀内III遺跡-水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 54 1999 『千鶴IV遺跡-水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 55 1999 『崎山貝塚-第12次・13次内容確認調査概報』
- 56 2000 『木戸井内VI・木戸井内III・上村III遺跡-特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 57 2002 『山口館跡-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
- 58 2002 『小沢VI大上遺跡-市内遺跡発掘調査報告書2-』
- 59 2003 『大又沢VI遺跡-東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書-』
- 60 2003 『上根井沢I遺跡・沼里遺跡-市内遺跡発掘調査報告書3-』
- 61 2003 『早稲橋VI遺跡第6次調査-市内遺跡発掘調査報告書4-』
- 62 2003 『下在家I遺跡-平成14年度発掘調査報告書-』
- 63 2004 『大程II遺跡・平浜遺跡-市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書-』
- 64 2005 『弘川館跡-瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書-』
- 65 2006 『高浜VI地神遺跡-高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書-』
- 66 2006 『崎山貝塚第20次調査・早稲橋II遺跡第7次調査-市内遺跡発掘調査報告書5-』
- 67 2006 『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込I遺跡-市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書-』
- 68 2006 『木戸井内IV遺跡-宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書-』
- 69 2006 『菅ノ沢遺跡発掘調査-市内遺跡発掘調査報告書6-』
- 70 2007 『山口館跡-市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
- 71 2007 『近内館跡-宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書-』
- 72 2007 『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査-市内遺跡発掘調査報告書7-』
- 73 2007 『弘川館跡第2次調査-宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書-』
- 74 2008 『荷竹日向IV遺跡-市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書』
- 75 2008 『宮古市遺跡分布調査報告書5』
- 76 2009 『国指定史跡崎山貝塚 第IV期内容確認調査概報(骨角器篇)』
- 77 2010 『宮古市遺跡分布調査報告書6』
- 78 2011 『宮古市遺跡分布調査報告書7』
- 79 2012 『重茂館遺跡群-第2次発掘調査報告書-』
- 80 2014 『八木沢駒込I遺跡・八木沢駒込II遺跡-市道磯鷗館山遺跡線改良工事関係発掘調査報告書-』
- 81 2014 『蜂ヶ沢I遺跡・山口駒込I遺跡・山口駒込II遺跡-市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書-』
- 82 2014 『赤畑東遺跡-山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書-』
- 83 2015 『千徳城遺跡群-一条工務店モデルハウス建築工事関係発掘調査報告書-』

宮古市埋蔵文化財発掘調査報告書 83

千徳城遺跡群

— 一条工務店建設工事関係発掘調査報告書 —

2015.3

平成 27 年 2 月 28 日発行

発 行 岩手県宮古市教育委員会

〒028-2101 宮古市茂市第 2 地割 112 番地 1

TEL.0193-68-9122

印 刷 有限会社 宮古プリント

〒027-0052 岩手県宮古市宮町 1 丁目 4-33
